

令和元年度  
車座集会の開催結果

令和2年5月  
世田谷区

## <目 次>

○車座集会の開催結果	・・・P 2
○地区別質問・意見等(要旨)	
<b>世田谷地域</b>	
池尻地区	・・・P 3
太子堂地区	・・・P 6
若林地区	・・・P 9
上町地区	・・・P 13
経堂地区	・・・P 18
下馬地区	・・・P 21
上馬地区	・・・P 24
<b>北沢地域</b>	
梅丘地区	・・・P 27
代沢地区	・・・P 31
新代田地区	・・・P 36
北沢地区	・・・P 40
松原地区	・・・P 44
松沢地区	・・・P 47
<b>玉川地域</b>	
奥沢地区	・・・P 52
九品仏地区	・・・P 55
等々力地区	・・・P 57
上野毛地区	・・・P 60
用賀地区	・・・P 62
二子玉川地区	・・・P 65
深沢地区	・・・P 68
<b>砧地域</b>	
祖師谷地区	・・・P 70
成城地区	・・・P 73
船橋地区	・・・P 76
喜多見地区	・・・P 79
砧地区	・・・P 83
<b>烏山地域</b>	
上北沢地区	・・・P 86
上祖師谷地区	・・・P 89
烏山地区	・・・P 92
○要望等一覧	・・・P 95

## 車座集会の開催結果

### ○開催内容

「地域行政」をテーマに、地区住民とこれまでの地域行政のあゆみを共有し、より身近な行政や住民参加のあり方などについてご意見をいただき、地域行政の条例化の検討につなげることを目的に開催(令和元年9月～令和2年2月)した。車座集会の前半には地域行政についてのご意見、後半は身近な課題についてのご意見を伺った。

### ○開催結果

地域	地区	日付	曜日	時間	参加者
世田谷	池尻	9月7日	土	10時～12時	12名
	太子堂	1月25日	土	14時～16時	15名
	若林	1月18日	土	14時～16時	19名
	上町	2月2日	日	14時～16時	19名
	経堂	12月14日	土	14時～16時	8名
	下馬	2月9日	日	10時～12時	23名
	上馬	11月17日	日	14時～16時	14名
北沢	梅丘	1月25日	土	10時～12時	17名
	代沢	2月9日	日	14時～16時	20名
	新代田	12月8日	日	14時～16時	21名
	北沢	2月1日	土	10時～12時	12名
	松原	2月2日	日	10時～12時	25名
	松沢	12月21日	土	14時～16時	17名
玉川	奥沢	9月8日	日	10時～12時	33名
	九品仏	11月16日	土	14時～16時	12名
	等々力	2月16日	日	10時～12時	10名
	上野毛	2月8日	土	10時～12時	17名
	用賀	11月2日	土	14時～16時	28名
	二子玉川	1月26日	日	14時～16時	26名
	深沢	12月7日	土	14時～16時	20名
砧	祖師谷	1月26日	日	10時～12時	19名
	成城	11月16日	土	10時～12時	11名
	船橋	9月8日	日	14時～16時	20名
	喜多見	12月15日	日	14時～16時	28名
	砧	2月1日	土	14時～16時	13名
烏山	上北沢	12月21日	土	10時～12時	15名
	上祖師谷	1月18日	土	10時～12時	22名
	烏山	9月14日	土	14時～16時	16名
合計					512名

地区別質問・意見等(要旨)

車座集会当日の質問や意見への回答、「意見・質問票」への回答を以下の項目に分けてまとめた。

項目

「しくみづくり」、「まちづくりセンター」、「窓口・出張所」、「総合支所」、  
 「まちづくり」、「防災」、「安全・安心」、「福祉」、「環境・清掃・リサイクル」  
 「みどり・公園」、「道路・街づくり」、「交通」、「子ども・教育」、「公共施設」、「その他」

○池尻地区

項目	質問・意見等(要旨)	回答要旨
まちづくりセンター	町会長として、まちづくりセンター所長には町会と区の連携について相談にのってもらい、とても頼りになっている。	地域行政制度の導入には12年かけて検討した。当時の情熱を持って、これから約1年かけて地域行政制度を検証し、条例にしていきたい。
まちづくりセンター	区長からの説明や町会長として関わる中で、3者連携の取り組み等が分かってきた。	3者連携の取り組みによりまちづくりセンター、社会福祉協議会、あんしんすこやかセンターが同じ場所にいることで、必要な情報を共有し、対応できるようになっている。
まちづくりセンター	出張所からまちづくりセンターになり、窓口業務は簡略化されたが、趣味に関する団体等の様々な情報を窓口で紹介できることは、この地区の方に喜ばれている。	出張所からまちづくりセンターになり、取り扱い業務を限定した。年末に証明書自動交付機を廃止するが、マイナンバーカード対応の交付機を設置するとともに、マイナンバーカードが無い方への対応等、業務を整理していく。
まちづくり	若い世代が町会に入らない。区を挙げて、地域活動を促し、ともに町を盛り上げていくための施策をしてほしい。	町会を知らない若い世代にとって、町会に加入するきっかけが必要。また、災害時における町会関係者の負担からも、平常時から地域のイベントを通じて顔と顔が繋がることが大事であり、区としても支援していく。
まちづくり	町会に入らない若い世代に対して、町会を知ってもらうアイデアや声かけが必要である。地域活動を促し、まちを盛り上げていく支援をしてほしい。	
交通	世田谷警察署による自転車の取り締まりについて、三宿交差点についても三軒茶屋交差点と同様に対応してほしい。	警察署と意見交換を行っており、よく聞いて対応していきたい。

交通	国道246を挟んで三宿1丁目・太子堂2丁目側と太子堂1丁目側の横断は歩道橋しかない。ベビーカーの方等を考慮し横断歩道を作ってほしい。	関係団体の方から要望書も寄せられており、担当部署で対応を調整の上、交通管理者（警察、国道事務所等）に協議している。進展状況は改めてご報告したい。
交通	三軒茶屋から池尻までの国道246号線上りの歩道にある放置自転車が増えてきているので、対応してほしい。	放置禁止区域の対応として、どこまで強化できるか担当部署に伝える。後日、交通安全自転車課より、国道の道路管理者（国土交通省国道事務所）へ、定期巡回・撤去等の対策強化を依頼済。
子ども・教育	児童館や青少年会館等で、車座集会のような場を設けて、若い方の意見をもっと吸い上げてほしい。	青少年会館等での事業等を通じて、次世代の担い手として若者の声を区政に反映していきたい。
子ども・教育	引っ越ししてきた子育て世帯から、子ども関係の相談や手続きがまちづくりセンターでできないかとの意見が出ている。	子育て相談や交流ができるおでかけひろばを区内約30か所で開いており、まちづくりセンターも情報提供している。子育て相談の場所等は今後の課題としていきたい。
子ども・教育	児童相談所の開設は課題が多いが、みんなが一緒になって子どもたちのためにうまく進めてほしい。	保育園、学校、民生委員・児童委員等の情報をもとに、世田谷区が一体となり虐待を未然に防げるまちを目指して取り組んでいく。
子ども・教育	専門的なスキルを持つ児童相談所が、家族にどこまで関われるのか、相談所で何ができるのか、具体性の検討をしてほしい。	児童相談所長が親からの虐待により生命の危険がある子どもの一時保護や親元に戻す判断を行うとともに、児童虐待を乗り越え家族と再び暮らすための援助をしていく。
子ども・教育	発達障害の子どもを、預かる場所はあっても専門員が不足している。相談窓口の充実や職員のスキルアップをお願いしたい。	個別にご相談いただき、ご案内する。また、発達障害でお悩みの方と関係機関の方との懇談の場を作りたい。
公共施設	古い地区会館を何とかしてほしい。また、三宿・池尻地区内にもう1つ地区会館を増やしてほしい。	公共施設が一斉に老朽化している状況であり、修繕、建替も含めて庁内で議論している。区民集会所も設置している。利用率低い部屋もあるので、池尻の方も三宿地区会館を使っていたきたい。
公共施設	池尻4丁目地区には地区会館が無いのでしてほしい。	
公共施設	世田谷総合支所は、三軒茶屋に移転できたのではないかな。	三軒茶屋で検討していた場所は、部署が入り切れない問題等があり断念した。

公共施設	世田谷区民会館が、取り壊してではなく部分的改修で済み、大変ありがたい。	趣のある建物であるが、楽屋が狭い等の問題があった。今回の改修で、楽屋部分を2階建てにし、地下に広いリハーサル用スタジオを新たに設けるなど、スペースと動線の課題を改善する。
公共施設	梅丘に、病院や介護施設ができることはありがたい。	世田谷区立保健医療福祉総合プラザと、東京リハビリテーションセンター世田谷が、保健・医療・福祉の拠点として完成する。また、福祉の人材育成や大地震のときの救護・医療拠点になる予定である。
公共施設	旧池尻地区会館について、地域交流等の場所として有効利用してほしい。	物品保管庫として使用している。建築基準法上の接道義務の点等から、建て替えなどが難しい状況である。地域交流の場の必要性はご提案として受け止める。
その他	世田谷区で育った子どもたちが、就職先がない理由で、区を離れるのが残念。区での就職機会を増やし、まちづくりに関わってほしい。	区の基本構想・基本計画に基づき職住近接の取り組みを進めている。区内で生まれ、育ち、仕事をして地域活動もするという循環づくりを進めていく。
その他	池尻地区で許可されている民泊許可物件について、ステッカー（標識）が表示されていないので、事業者へ指示してほしい。	標識の表示状況を確認の上で事業者へ指示する。 後日、世田谷保健所より、事実確認のための調査を実施し、事業者へ標識の適切な掲示を指導した。
その他	町会では違法民泊と思われる物件への取り締まりに困ったときは、保健所へ電話するよう伝えているので対応してほしい。	それぞれの方からの電話もよいが、町会で意見をまとめて文書を出してもらおうと、区としても対応しやすいので、ご検討いただきたい。

○太子堂地区

項目	質問・意見等(要旨)	回答要旨
まちづくりセンター	まちづくりに関する会議について情報の共有ができていない。各会議体でやられている情報が、どこにもオープンにされていない。	地区の事業は住民主体で実施しており、まちづくりセンターは事務局の立場で携わっている。まちづくりには様々な課題があるため、会議体を多く設けている状況である。
まちづくり	よりよいまちづくりをしたい同じ思いの団体がたくさんあるが、会議等の情報がうまく共有されず、連携がスムーズにいかないことがある。	地区情報連絡会を開催し、団体間の情報交換を行っている。また、三者連携の事業で「見守りネットワーク推進会議」を実施し、保健や福祉を考える場として開催している。今回の地域行政制度の検討の中で考えていきたい。
防災	防災倉庫について、烏山川緑道に一部置いているが、太子堂 2-33 の「かえるひろば」にも置くことはできないか。	どの地区でも防災倉庫の置き場に困っている状況があり、また、ポンプ等の保管で倉庫が一杯の課題もある。設置については各所管課の確認の上、対応させていただきたい。
防災	台風第 19 号の際に、近隣の高齢で認知症の方の援助をしたくてもできなかった。民生委員等との連携はどのようになっているのか。また、地区防災計画の課題解決の進捗状況が聞きたい。	避難行動要支援者への取り組みとして、町会と協定を締結し、区が名簿を提供し、町会では支援担当者の配置を行っている。台風第 19 号で検討すべき課題が分かり、詳細な行動計画にするために緊急で取り組んでいる。区内 7 大学と連携し、学生の防災訓練参加等を行っている。また、先日開催した防災塾では、災害ボランティアのテーマで議論した。地区防災計画の各課題について、できるところから、地区の防災意識を高める活動や周知に取り組んでいきたい。
防災	防災訓練の参加者が町会役員や消防団員等いつも同じであり、形だけの実施とならないよう、いろいろな人が参加できるように PR してほしい。	在宅避難に必要な支援体制や様々な災害を想定した地区防災計画、エフエム世田谷を活用した災害時の情報発信等の取り組みを進めるとともに、日頃からの繋がりや防災塾への参加等、災害に強い体制づくりに繋がってほしい。

福祉	<p>無認可幼稚園の「あそびの会」が文科省の無償化対象から外され、廃園の危機にある。国に相談時、無償化の対象を広げているところと言われ、都に相談時は、地元の世田谷区がなぜ支援してくれないのかと言われた。国の補助対象となった場合に区がストップをかけることはないか。</p> <p>また、5年間の補助終了後、区の支援有無と、次の支援に向けて自分たちで何かできることはあるか。</p>	<p>今回の無償化から外れた園は、制度設計からもれているという指摘があり、国も課題として認識している。一定規模の園を対象に調査研究を行い、補助制度をつくりたいという話を聞いている。調査研究は区が止めることはない。国が実施する前提ではあるが、区も対応できるような準備は進め、引き続き国に働きかける。5年間の補助制度後について、国から通知がないが、区としては外遊びを推奨し、施設有無に関わらず、支援制度をつくっていく。</p>
福祉	<p>「あそびの会」のように、無認可幼稚園で無償化から外れた園に対して、区は救う気があるのか再度確認したい。</p>	<p>「あそびの会」運営の応援は区として続ける。幼児教育無償化がなくなることがないように、区から国に対して支援体制をつくるよう伝えていく。</p>
みどり・公園	<p>ふれあい広場での開催イベントにおいて、点字ブロック上に物を置いて通れない状況があった。区からも厳しく指導してほしい。</p>	<p>ふれあい広場を使用する団体には、適正な利用を働きかける。</p>
交通	<p>太子堂 1、2丁目の間には歩道橋 1 か所のみで、平面の横断歩道を希望しているが国道の幅員上できない報告があった。</p>	<p>80年代のまちづくり計画を見ても、道路でまちが分断され、広場がなく、商店街の回遊性がない等、長年の課題であることを認識している。首都高3号線の真下による制約や信号機を作ることの渋滞等の意見もあると思うが、人口も増加し、歩道が狭くてすれ違いが難しい場所もある等、災害時を含む生活優先のまちづくりとしてを引き続き粘り強く検討していきたい。</p>
交通	<p>国道 246 号線の横断歩道について、昭和女子大学にも地域の方々から意見が届き、12 団体からの署名を集めて区に提出したことがある。高齢者や車椅子の方等、誰もが横断できるよう粘り強く交渉してほしい。</p>	<p>80年代のまちづくり計画を見ても、道路でまちが分断され、広場がなく、商店街の回遊性がない等、長年の課題であることを認識している。首都高3号線の真下による制約や信号機を作ることの渋滞等の意見もあると思うが、人口も増加し、歩道が狭くてすれ違いが難しい場所もある等、災害時を含む生活優先のまちづくりとしてを引き続き粘り強く検討していきたい。</p>
交通	<p>国道 246 号線に横断歩道がないことで、ベビーバギーの移動が困難である。昭和女子大学の近隣には子育て関連施設が多く、子連れの方が多くなる。</p>	<p>80年代のまちづくり計画を見ても、道路でまちが分断され、広場がなく、商店街の回遊性がない等、長年の課題であることを認識している。首都高3号線の真下による制約や信号機を作ることの渋滞等の意見もあると思うが、人口も増加し、歩道が狭くてすれ違いが難しい場所もある等、災害時を含む生活優先のまちづくりとしてを引き続き粘り強く検討していきたい。</p>

交通	三宿と池尻大橋間は3か所の横断歩道と歩道橋があるのに対し、三宿と三軒茶屋間は歩道橋1か所のみ。	ご意見は平成18年の交通バリアフリー基本構想のときにも出ており、長年の課題と認識している。国や警視庁と協議等行っており、今後も情報提供等含め、粘り強く対応していく。
子ども・教育	住民参加の問題について、イタリアのレッジョ・エミリアでは教育関係施設の名称決めに子どもが大人にリスニング等行っている。区も教育総合センターをつくる際、子どもの力やアイデアをもっと活用してはどうか。	区では、「希望丘青少年交流センター（アップス）」の開設に、半年かけて若者の意見を聞いたうえで設計、名称の公募を行った。子どもたちが主体的に発言することも教育であり、ご意見を教育委員会とも共有していきたい。
公共施設	区民センター、まちづくりセンター、街づくり課等、施設の名称と役割がわかりづらい。ネーミングをもう少し考えてほしい。	区民センターは住民運営型の施設で、運営協議会で運営していることもあり、当初の目的からみても名称変更は困難。街づくり課はハード面、まちづくりセンターは住民参加のまちづくりを担当することをご理解いただきたい。

○若林地区

項目	質問・意見等(要旨)	回答要旨
まちづくりセンター	三軒茶屋町会は 1 丁目と 2 丁目 で管轄するまちづくりセンターが 分かれている。名称が変更できな いのであれば、括弧等で表記の工 夫をしてほしい。	まちづくりセンターの単位や名称の 変更はタブーではない。今回の地域 行政制度の条例化や見直しの中で検 討していきたい。
窓口・出張所	5か所ある出張所の存続の検討は しているのか。まちづくりセンタ ーに機能を集約して、出張所を廃 止するのも行政改革として一案で はないか。	出張所廃止は窓口を廃止すること になり、区役所と5つのくみん窓口で 対応するのは難しい。出張所の配置 やまちづくりセンター機能の検討等 は今回の地域行政制度見直しのテー マであるので、議論していきたい。
総合支所	三軒茶屋の街づくりについて、 NTT 跡地開発問題等、世田谷総合 支所街づくり課と市街地整備課と の連携を更に深めて進める必要が ある。日常的な連携、兼務発令、 人事交流の3点をもつて的確に対 応してほしい。	世田谷総合支所街づくり課と市街地 整備課は連携して、ワークショップ を開催し、一緒にファシリテーター として取り組んでおり、基本計画の 検討も連携していくことは重要であ る。連携のあり方については、検討し ていきたい。
防災	若林地区では避難所が若林小学校 と三軒茶屋小学校しかないため、 在宅避難を進めてきたが、備蓄物 品の区の備蓄量の基準がどのよう になっているか、またそれを超え た備蓄ができないか。	備蓄物品について、区では避難所に 1 日分の備蓄しているほか、クロノ ゲートから避難所に物資を直接運ぶ しくみを整えてきた。また、災害時に 集まる人や物資を必要なところに届 けるためには自治体のしくみと区民 の自主的な活動が極めて重要であ り、区としてもPRしていきたい。
防災	災害時の安否確認について、若林 地区では介護事業者を入れた形 で、訓練を行っている。行政側だ けではなく、介護事業者の情報も含 めた名寄せ等を行政でもち、災害 時には連携して、安否確認ができ るようにしてほしい。	若林地区は、災害時避難行動要支援 者の安否確認について力を入れて訓 練をやっていただいていることを認 識している。進めていく上で個人情 報の配慮等必要であるが、ご意見に ついて、関係所管に伝えたい。
防災	在宅避難している人は避難所に行 かないと食料等がもらえないのは 困る。地域である程度まとまって いただけるとよい。	今後、区の防災倉庫に東京都の備蓄 物資を納入する話もある。在宅避難 をするうえで、当面の備蓄は各自で お願いしたい。在宅避難の方への物 資の届け方は災害対策課にも伝えて いく。

防災	避難行動要支援者同意者名簿について、実際訪問してみると「自分は頼んでいない」という人や症状が回復して対象とならないのに名簿に載っている人など、いろいろな人がいる。同意を得るときの手紙にはどのように書かれているのか。	避難行動要支援者同意者名簿を町会及び民生委員・児童委員へ提供することについての同意の有無を文書（同意書）にて確認している。名簿の更新は1年に1回であり、施設入所等、最新の状況が反映されていない場合がある。要介護度等の登録要件に該当しなくなった場合でも、名簿からの削除はご本人等からの申し出をもって行っている。代理人の方が回答される場合は、ご本人へ可能な範囲で本事業の説明を行っていただくよう案内している。また、同意確認の際には、本事業のリーフレットも同封し、趣旨についてご理解いただけるよう取り組んでいる。
防災	クロノゲートは防災拠点としてどのような役割になっているのか。	災害時協力協定を締結しているヤマト運輸が、災害時に区の要請により、羽田クロノゲートを区の輸送拠点として開設し、物資の受入、仕分け及び避難所への輸送等行うこととなっている。ヤマト運輸成城支店内倉庫に区の備蓄を置くことで倉庫から直接避難所へ輸送する体制も整えた。
防災	三軒茶屋小学校について、耐震補強工事などしているが、できて50年が経ち、災害時に本当に使えるのか心配。防災機能や帰宅困難者の対応も含めた将来構想を立ててほしい。	数年後には改築対象の順番になると思われる。将来人口を見据えた教室の確保、地域の避難所機能、帰宅困難者利用、学校の教室や体育館の地域活用を含めた計画を検討していく。
防災	「在宅避難のススメ」を全区に広報・宣伝してほしい。	在宅避難のススメはバージョンアップし、全区的に広報できればと考えている。先進的に行っている若林地区においてはさらに検討してご提案をいただきたい。
福祉	高齢福祉課等の支援を受けて立ち上げた「すこやかサロン」は、現在は体操だけでなく、茶話会や相談事等、様々なよりどころの場として役立っているが、活動場所の確保に苦労しているので増やしてほしい。	活動場所がない問題に対しては、地区会館の大広間の使用や学校の活用など、限られた施設を有効に使用するしくみづくりが地域行政の大きなテーマのひとつと認識している。

公共施設	若林まちづくりセンター跡地の活用について、平成29年に要望書も提出しているが、まちづくり活動が行えるサロンの機能を有する施設、災害時の避難所や備蓄の機能を備えた施設にしてほしい。	本庁舎整備に伴い、若林まちづくりセンター移転後の建物は、文書の移転先や仮事務所としての利用が計画されている。要望や近隣の施設事情も踏まえて将来の活用方法を検討したい。
公共施設	世田谷保育園跡地の活用について、福祉関係の施設にしてほしい。	世田谷保育園の跡地には、社会福祉法人が運営する認可保育園を整備する予定でいる。
公共施設	若林まちづくりセンター跡地の活用について、高齢者が集える場所にしてほしい。	高齢者の居場所については既存施設の多機能的な活用も含め、検討していく。
公共施設	若林小学校の跡地の教育センターには、今の教育センターにあるような喫茶室や売店を作してほしい。	教育センターは教員の研修のほか、保護者の方が子どもについて相談し、親子が集う場所として整備する。売店等については、教育委員会に伝える。
公共施設	三軒茶屋地区には児童館、図書館など子どもの施設がないため、保健センターの跡地は子どもが活動できるような複合施設にしてほしい。	保健センターは世田谷区医師会との区分所有になっており、現在協議中である。その進捗をふまえて検討していきたい。
公共施設	区の施設に「三軒茶屋」の名が付くものが非常に少なく、三軒茶屋の人にはわかりにくい。若林まちづくりセンターが複合施設に移転する際は、「三軒茶屋」の名を入れてもらえないか。	既存施設の名前の変更は新規施設と誤って見えてしまうこともあり、慎重な対応が必要であるが、地名に対するご意見や思いを十分に受け止め検討したい。
公共施設	高齢者の集える場所づくりについて、遠方や雨で行けない方もいる中、がやがや館のように、ひとりでも行ってみたいと思うような場所をつくってほしい。	この地区のひだまり友遊会館も含め、施設の有効活用を検討していきたい。
その他	ダイバーシティについて、キャロットタワーの八角堂に外国人の窓口ができるが、三軒茶屋を拠点とするなら保健センター等の跡地をダイバーシティのシンボルとするような構想を立ててほしい。	八角堂には国際交流センター（仮称）をつくる予定で、せたがや文化財団が運営する。なお、支所には通訳がいるが十分ではないため、居住歴の長い外国人の方で相談・案内の役割を自ら協力してくれる等、4月からの開始準備を進めている。

その他	三軒茶屋は 1 丁目と 2 丁目が分断されており、会長の業務は 2 倍で大変である。名称だけでなく考えてほしい。	分断による課題は認識している。歴史的背景もあるが、議論はしていきたい。
その他	若い世代を地域の取り組みに巻き込むことが大事である。若者が区政に興味を持ってもらえるよう、例えば、デザイナーやディレクターとして入ってもらい、公の書類を簡潔に分かりやすく直すなど、外国人にもわかりやすい書類を作ってほしい。	ユニバーサルデザインを踏まえた文書づくりを指示している。多言語・多文化のコミュニティにおいては、やさしい日本語でわかりやすく伝えていくための努力を行ってほしい。

○上町地区

項目	質問・意見等(要旨)	回答要旨
まちづくり	民生委員や消防団等の会議では、同じメンバーである事が多く、新しい住民から人材として掘り起こすことも難しい。このままではメンバーの高齢化や複数担うことの疲弊も考えられるため、行政も人材の掘り起こしについて考えてほしい。	避難所運営訓練において、PTA やおやじの会とともに企画し、担い手の裾野が広がった事例がある。子どもを介した地域のつながり、新たに地域に参加するチャンネルづくりが重要である。また、無作為抽出で参加者を募るイベントには多くの方の参加があった。町会のメール配信等とともに考えていきたい。
まちづくり	PTA の OB に地域活動に積極的に参加するよう呼びかけを行ってほしい。	区や町会・自治会そのほか地域活動団体が工夫して呼びかける必要がある。災害時に、地域のつながりにより助け合うことができるか課題であり、福祉カフェ等も重要と思われる。学校施設の活用など検討していきたい。
まちづくり	小中学校に区の情報発信や情報収集の場として福祉カフェをつくってほしい。	
防災	防災訓練に際し、世田谷消防署から土日の訓練に職員を派遣できない回答があった。平日は集まりにくいいため、区から消防署に相談してもらえないか。	できるだけ対応してもらえるように消防署に伝えていく。区で貸すことができる物品もあるので紹介させていただきたい。
防災	ボランティアセンターは台風第19号の状況からも、今後の大規模災害時に今の人数だけで対応できると思えない。社会福祉協議会内に災害対策部を作り、ボランティアセンターと合体して災害対応してほしい。	南三陸町では社会福祉協議会がボランティアの差配を行っていたと思うが、世田谷区はボランティアセンターがある。大規模災害があった場合、全国や海外からのボランティアにどのように仕事の割り振り・差配していくか検討していく。
防災	リーフレット「在宅避難のすすめ」について、防災知識を高める活動として全戸配布を目的に作成し、高評価をいただいた。これからも防災力を高めるため、さまざまな意見を取り入れ、活動していきたい。	地域の様々な問題を解決していくしくみづくりの上でも、防災の問題を一緒に考える場をつくることは大事である。

防災	集合住宅は、なかなか町会に加入しない、自分の町会を知らない、回覧物等見ないことが多いが、「在宅避難のすすめ」はマンション居住者からも大きな反響があった。これからもっと発展していきたいと考えている。	区の人口数と避難所となる学校数で考えた場合、在宅避難が不可避となる。在宅避難者の確認方法や救援物資について、全区で取り組む問題だと認識している。
防災	災害時、防災無線が聞こえないという意見があるが、エフエム世田谷を活用し、緊急地震速報の警報音を流して周知してみてもどうか。	災害対策本部の一角にエフエム世田谷の放送設備を設けて各責任者から情報を発信するなど、今回の経験も踏まえ、さらにエフエム世田谷を活用していきたい。
防災	防災塾での訓練において、災害時に混乱するのは分かるが、訓練で混乱しているのはおかしい。	区職員の対応や熟練度を増す訓練を行ってほしい。
安全・安心	自動通話録音機の使い勝手が悪い、強く押さないと稼働しない、押しても稼働しないボタンがある。経費の節約を図ったのか。	自動通話録音機は、警視庁が発注し、東京都より無料で貸与しているものである。お使いのものに不具合がないか確認をさせていただきたい。
福祉	娘が交通事故に遭い、その結果障害者となり、現在介護をしている。親亡きあとの障害者に対する生活支援策について示してほしい。	世田谷区の施設の転用や改築の際に、障害者を介護する方が亡くなった後の社会的ケアを受けて生活できる場について区で議論している。重要な課題として認識しており、改めて、今回のご指摘を受け止めたい。
福祉	成年後見制度について、親が子どもの後見人なるケースもあるが、子どもたちを住み慣れた世田谷でどう過ごさせていくのか、身上監護を含めた後見学習メニューを具体的に聞きたい。今後の生活設計が不安である。	切実な課題であることを認識している。当事者それぞれニーズが違うので細かく区で話を伺い、学習メニュー等を提案していきたい。
福祉	品川で行っている成年後見監督人センターを世田谷区につくり、成年後見人が困ったときに弁護士や社会福祉協議会等が監督人としてバックで支えてほしい。	社会福祉協議会で成年後見人センターを運営し、全国に先駆けて区民後見人の登録も進めているが、成年後見人を作ったがうまく受け持ちができていない声もある。監督人センターについては品川の実践例を参考に、社会福祉協議会に情報提供していく。

福祉	世田谷区で、区民成年後見支援員と世田谷区手話通訳の登録者として関わる中で、手話の立場で支援する際に後見人が必要と思われる方がおり、立場上踏み込めないケースがある。また、区民後見人の負担が少しでも軽くなるようにしてほしい。	社会福祉協議会で成年後見センターを運営しているので、今回、車座集会でのご意見を伝えていく。
福祉	人と人とのマッチング・関わりについて、それぞれ専門分野での取り組みはあるが、隙間が繋がらないのではないかと。不登校や8050問題等もある中、先にばかり進むのではなく、過去も振り返り、人との関わりを丁寧に見ていただきたい。	不登校については、区で3か所目にあたるほっとスクール「希望丘」を1年前に開設した。また、8050問題では、39歳までの若者の引きこもり支援として「メルクマールせたがや」を開設したが、40歳以上も多い状況から、「ぷらっとホーム世田谷」の生活困窮者支援を全区的に取り組むための調査を始めたところである。家族の中で背負い込んでいる問題について、取り組みを進めていく。
福祉	区の職員採用の機会には、引きこもり対策や精神障害者対策も含めて検討してほしい。	特別区では知的障害者や精神障害者の職員採用を、今年度から開始している。今後、採用拡大をしていく予定である。 また、障害者雇用において、定時雇用が難しい方の受け皿をつくる取り組みをしていく。
環境・清掃・リサイクル	「せたがや版 RE100」の取り組みは、電気をどこから買うのか明解ではない。長野県庁に行って意思表示してほしい。	区立保育園の電気は長野県から買っている。長野県知事には話しているが、具体的な話についてはこれからである。
交通	今年の4月より、三軒茶屋にある保健センターが梅ヶ丘うめとぴあに移転するが、循環バスがなく、通うのに非常に不便である。また、上馬方面から世田谷駅の近くを通るバスの本数も少ない。	上馬方面から世田谷駅の近くを通るバスは、等々力駅と梅ヶ丘駅を南北に結ぶコミュニティバス等々力・梅ヶ丘路線になる。本路線は、平成29年1月に1日6便にて本格運行をスタートし、現在では1日14便での運行となっている。「梅ヶ丘うめとぴあ」の整備を好機ととらえ、コミュニティバス等々力・梅ヶ丘路線の増便や新たなバス路線の導入をバス事業者働きかけていく。

交通	コミュニティバス新設希望について、城山通り（上町、宮坂→千歳船橋）は、バスもなく、不便と思われるので新設したらどうか。城山通りなら区役所前までも可能ではないか。	コミュニティバス路線の導入には、バスが通行できる道路幅員だけでなく、交通安全や採算性の確保、沿道住民のご理解など課題も少なくない状況である。いただいたご要望は、バス事業者へお伝えするとともに、今後も新たな道路整備のタイミングやバス路線の再編などにあわせ、バス事業者に働きかけていく。
子ども・教育	桜丘中学校が校則を無くしたことについて実情を聞きたい。	段階的に校則を減らし、踏み込んだ改革を行った。その結果、生徒の学習意欲が増し、不登校であった生徒が登校できるようになる等のプラス面があった。
子ども・教育	学校評価のアンケートの内容が不的確ではないかとの指摘に対する回答の文書が当初の予定を過ぎたが届かない。教育委員会という組織は機能不全ではないか。	教育委員会より、回答が遅れて申し訳ないこと、早急に確認・対応する旨の伝言を受けている。
公共施設	区民施設を利用しているが、スリッパが古く、サイズが小さい。また、カーテンが破れているなどの施設が多い。何年使ったら買い替える等の基準はあるのか。また、だれがチェックしているのか。	施設により施設管理者が異なるが、気が付いた時点で、利用者に気持ちよく使ってもらえるよう対応していくことが必要だと考える。施設管理部署で確認の上、改善していく。
公共施設	町会等のグループ活動する際の拠点となる集会所が欲しい。	上町まちづくりセンターの活動フロアをご利用いただきたい。新たな施設を作ることは難しい状況であり、世田谷トラストまちづくりと連携した空き家活用など、活動場所を支援するまちづくりを進めていく。
その他	区に火葬場がない。首都直下型の地震が起きた場合、遺体の火葬についてどう考えているのか。東京都と調整をして砧公園に作るべきである。	大田区・港区・品川区・目黒区とともに臨海斎場を運営しており、火葬炉の増設の計画もある。区内整備には賛否がある。
その他	都は、災害時の火葬方法として、総定数を超えた場合に、校庭に遺体を並べた合同火葬としている。人間の尊厳を損なうことにならないよう問題意識を持つべきである。	ご遺体が想定数を超えた場合には、厳しい判断をせまられることになるが、人間の尊厳を損なうことがないよう対応していきたい。

その他	平和展・戦争展について、担当部署の変更により来場者の意見の展示がなくなった。その理由を聞きたい。次回は展示してもらえるのか。	人権・男女共同参画担当課より、意見の展示は検討していると聞いている。
その他	区長は人口が100万になることを望んでいるのか。それとも92万人程度に抑えようとしているのか。	100万人を望んでいるわけではない。居住の制限はできず、農地の宅地化等により人口が増えている。区として人口を増やす施策を進めるつもりはなく、良好な住環境の確保として、マンションの高層化に制限を設けたり、土地の細分化を防ぐルールづくりはしている。
その他	区民の声と回答について、デジタル化して公開すべきである。	ホームページ等の機能をさらに充実させていきたい。
その他	ふるさと納税でお金がない話について、キャロットタワーにある芸術関係の法人の決算書には、区から10億円の補助金とあり、そのまま繰り越している。繰り越ししているのだからやめたらどうなのか。	財団の財務状態については、より精査していきたい。
その他	区の聖火リレーについて、ポロ市通りから馬事公苑までの上町地区を通過するコースになった。盛大に応援したく、上町地区の各町会に応援用の小旗をお配りいただきたい。	応援用の小旗は、聖火リレーを盛り上げるツールの一つとして考えられる。聖火リレーの主催者である大会組織委員会及び東京都にご提案があったことを申し入れ、聖火リレーを盛り上げるツールとして検討をしていくよう要望していく。

○経堂地区

項目	質問・意見等(要旨)	回答要旨
まちづくりセンター	桜丘在住だが出張所、まちづくりセンターが遠くて不便。自分は別用も兼ね電車で三軒茶屋まで行っている。公共施設の配置をもっと考えて欲しい。	現在、経堂出張所、経堂まちづくりセンターの改築は予定していないが、いただいたご意見は今後の参考にしていく。
防災	災害時の初期対応を区民が各自で判断するためのマニュアルが必要ではないか。	区では地震や風水害などさまざまな災害の態様や対象に応じてマニュアルや啓発物を作成している。お尋ねのマニュアルに近いものとして、「災害から命を守る防災カード」を作成している。より良いマニュアルや啓発物の作成に努めていく。
安全・安心	食の安全の観点から、区内での学校給食を有機食材、無農薬野菜へしていく取り組みは進めていただきたい。	区で農薬の使用状況を調査し、今後使わないよう取り組んだ。給食は、有機農法の広がりや供給できる量の課題など踏まえ、できることから取り組みたい。
福祉	あんしんすこやかセンターは桜丘からは遠く高齢者が頻繁に行くことができない。相談窓口の集中としては効率的かもしれないが、桜丘にもあんしんすこやかセンターを作ってほしい。	区民センターなどで出張相談を行う例もあるので活用していただきたい。梅丘に認知症在宅生活サポートセンターができることで、地域の中で対応できる体制構築を目指している。
福祉	認知症の方が暴れたり、夜の徘徊があった場合の相談先が分からない。スウェーデンのように24時間解決できる体制があると良い。	地域で見守る力を高める取り組みを強化していきたい。また、今ある見守りのしくみの中で高齢者安心コールのコールセンターが24時間対応しているので利用していただきたい。
福祉	老人ホームにおける人手不足による身体拘束の報道を見たが、区では賃金等も含め、どうなっているのか。	介護職員の永年勤続表彰や資格取得の助成を行っているが、保育士の賃金や家賃補助等の待遇改善に向け、引き続き国や都と共に取り組んでいきたい。
福祉	健康体操の自主グループを立ち上げて月2回実施している。今後も長期健康寿命のために支援してほしい。	自主グループの活動支援については、プログラムの内容等個別に確認し、紹介させていただきたい。

福祉	高齢者向けのやさしい体操を指導するには、プロが行う必要がある。みんなで助け合うための活動の輪が増えるよう支援してほしい。	健康寿命を延ばし、地域コミュニティ醸成に繋がる大切な取り組みと認識している。利用の少ない部屋の有効利用など対策を考えたい。
道路・街づくり	千歳船橋駅周辺には緑の潤い、憩える場所がないので周辺全体において整備を検討してほしい。現在は集える場所も駅改札前の暗いベンチしかない。	「千歳船橋駅周辺地区地区街づくり計画」を定め、緑と憩いのスペースを創出するなど「ひろばづくり」として、小広場や駅前広場を整備し、地域の交流・憩いの場づくりに努めている。引き続き地域の意見を活かしながら、街の潤いとなるような広場づくりを進めていきたい。
交通	桜丘周辺では路線バスが走っていないところもあり、高齢者が外出するのに不便である。小さな乗り合いバス等の話を聞いたことがあるが、区としての交通政策はどうなっているのか。	バス路線の存続・拡充をバス事業者に働きかけているが、採算や運転手確保等の課題等があり難しい状況である。現在、別のモデル地域1か所で交通不便解消の実施準備のほか、タクシー事業者と連携した乗り合い等、新たな取り組みも含めて検討する。
交通	公共施設への案内表示やバス停・バス路線の案内図が不十分である。駅前や施設へのルート上にもっと分かりやすい表示を設置すべきである。	公共施設への案内サインは各施設の所管部署が、バス停やバス路線図はバス事業者が作成し、管理を行っており、表示の不備で目的が十分に達せられていないサインについては、都市デザイン課から施設所管や事業者にご意見を伝える。
子ども・教育	児童相談所の設置にあたり、これまで施設で問題となってきた子どもの人権問題について、区で改善することは可能か。	職員体制を現在より厚くし、一時保護所での生活をより小さなグループ単位で行うとともに、権利侵害について外部機関が声を聞くなどの策を講じて改善することで、全国にも良いケースとして広げていきたい。

子ども・教育	<p>原発事故の影響を避け、福島の子どもたちを世田谷に呼んで外遊び等行う会は、区、教育委員会、世田谷ボランティア協会、社会福祉協議会との共催により実施できている。引き続き支援をお願いしたい。</p>	<p>とても意義深い取り組みであり、教育委員会、社会福祉協議会等に協力してもらい、場所の提供を進めてきた。引き続き支援は行っていきたい。</p>
公共施設	<p>あんしんすこやかセンターのいきいき健康教室について、経堂地区の会場で、定員 20 名とあるが希望者が超過している状況。実施箇所・回数を増やしてほしい。</p>	<p>学校・児童館等を含め、区の施設をより有効に利用できるよう取り組んでいる。意欲のあるサークル活動が継続できるよう支援していきたい。</p>
公共施設	<p>公共施設の名称が分かりにくい。「出張所」は住民にも浸透しているが何度か変更となり何をどこで行っているか全く分からない。「出張所」に統一して欲しい。あんしんすこやかセンターも名称から内容を類推できるようにすべきである。</p>	<p>5か所の出張所では、転入、転出などの窓口サービスを、28か所のまちづくりセンターでは、地区まちづくり支援を行っている。あんしんすこやかセンターの名称は、親しみやすいよう地域包括支援センターの区での通称として付けている。</p>
その他	<p>母親が 100 歳の敬老の慶祝品として区から区内共通商品券 2 万円分をいただいたが、本人の意思により、区の子ども基金に寄附をした。今後、敬老のお祝いの通知には、寄附の選択肢を予め記載してはどうか。</p>	<p>寄附を選択肢として予め入れることは難しいが、寄附文化の推進には努めていきたい。</p>
その他	<p>区内からプロスポーツチームの立ち上げの話があった場合、応援などを通じて地域のコミュニティが強化されるなどの利点があり、区として資金や場所の優先的な提供など支援を行う意向はあるか。</p>	<p>区ではアメリカのホストタウン誘致など、スポーツ施策に力を入れている。プロスポーツの拠点施設に様々な制約があるが、プロリーグが優先的に施設使用することは、今後のスポーツを盛り上げる一助にもなると考えられる。</p>
その他	<p>希望丘複合施設のほっとスクール希望丘の運営法人（NPO 法人東京シューレ）は運営する施設の元生徒から、2016 年に施設で性被害にあったと被害届が出ているが、区は確認しているか。また、この問題について組織対策を確認していただきたい。</p>	<p>ほっとスクール希望丘の運営を依頼後に認識したが、経過やそれに対する NPO 法人の見解等は追って回答する。 （後日） 契約締結後に関連の報道を確認した。直ちに同法人の対策状況を確認し、現在、同委託の履行状況も概ね良好である。</p>

○下馬地区

項目	質問・意見等(要旨)	回答要旨
しくみづくり	大場区長のときにあった政令指定都市にする話について、今後の可能性を聞きたい。	特別区としての法律上の立てつけが必要である。区として区内の分権と自治のしくみを整えていきたい。
まちづくりセンター	出張所からまちづくりセンターになったときに、機能を本庁舎に引き上げたが、地域防災力を高めるため、まちづくりセンターの機能を強化してほしい。	まちづくりセンターは地区防災支援担当として位置付けており、災害時は災害対策本部の拠点隊として位置付けられている。まちづくりセンターに求められる業務のあり方について、役割をさらに発揮することができるよう検討していく。
まちづくりセンター	下馬地区は、下馬 6 町会と野沢 4 町会で成り立ち、携わっており、現在のまちづくりセンターの名称「下馬まちづくりセンター」を「下馬・野沢まちづくりセンター」に変更することは可能か。	今回の地域行政制度の再構築や条例化に向けて、名称変更のほか、町会の区分け等、様々なご意見を伺っていきたい。
まちづくり	町会と町会長の位置づけが曖昧に感じている。立川市や八王子市などは町会を支える条例を制定しているが、世田谷区はどうか。	区では町会を支える条例の議論を、議会を含めて、数年前に行ったが、制定までは至らなかった。高齢化の中、町会の維持についてはともに考えていきたい。
防災	防災訓練を行う際は、高層と低層住宅の地域を考えて行ってほしい。	災害の規模や住宅環境によって避難の状況も変わる。全てを避難所で対応できないことから、他地区では、パンフレット「在宅避難のすすめ」を作成しているところもあり、区として統一したパンフレットの作成も検討していきたい。
防災	野沢 1 丁目の UR 高層団地群は町会に入っていないが、災害時には民生委員や町会が安否確認を行うことになる。大きな団地群については、自治会・町会組織をつくるよう、区から指導してほしい。	新しい団地には、自治会や世代交代して引き継ぐしくみがないため、地域住民組織による災害時要支援者対応等に繋げられるよう、UR に伝えていく。

防災	避難行動要支援者の締結について、町会は協定を結ばなくても、要支援者は救護するものと考えており、あえて区と協定を結ぶ必要性はないのではないか。	安否確認や災害時の救護についてできるところからお願いし、多少でも経費について区が助成するスタンスである。町会の事情もそれぞれ異なるため、丁寧に進めていく。
福祉	都から移管された清掃事務所や児童相談所など、都にとって持て余している事業を区に移管している印象を受ける。引き受ける際は、区として十分に確認してから行ってほしい。	児童相談所には大きな権限があり、区が児童相談所を担うことで、責任を負うことになるが、保育園、幼稚園、民生委員等、様々ある地域の目を全て活かし、児童虐待に対応していく。
福祉	障害者の親が亡くなった後、子どもは自立できないため、グループホームが必要である。民有地は近隣住民の反対で建設ができなかったため、公有地（下馬二丁目の都営住宅）の建て替えにおいて、グループホームの建設等検討していただきたい。	グループホームが不足していることを認識している。「東京リハビリテーションセンター世田谷」では居住施設を整備し、下馬二丁目都営住宅では用途の検討等、これからもグループホームの整備に取り組んでいく。
福祉	民生委員の委嘱年齢の上限が、厚生労働省では75歳未満であるのに対し、世田谷区では70歳未満である。人材不足の状況にあることから、厚生労働省と同じ基準にしてほしい。	民生委員は厚生労働大臣からの委嘱であるが、東京都が規則をつくり、都知事が任命する形式のため、区で年齢基準を決められない状況である。区からも年齢要件の緩和について、要望していく。
福祉	都営住宅跡地へのグループホーム建設要望について、計画される駐車場の一部でも変更してつくっていただくよう、区から都にあげてほしい。	現在、区では都営住宅やJKK東京の住宅改築の動きをしており、大蔵団地の再開発では、区・都・JKK東京が議論し、保育園や障害者施設ができる予定である。都営下馬アパートの建て替えにあたり、福祉目的の利用を、都と調整している。

福祉	児童相談所について都から財政面、担うべき役割を都に要望してほしい。	基礎自治体である世田谷区ならではの新たな児童相談行政を構築していく。児童相談所の運営については、保護者支援プログラムや、子どもの特性に合わせた入所施設の調整など、都と広域的な連携を図っていく。開設後も必要に応じて都区の役割の見直しを始め、財政支援や、支援制度の構築などの要望も積極的に行っていく。
みどり・公園	長年お願いしてきた下馬五丁目にある庚申塚の跡地利用（公園化）について、なるべく早く行ってほしい。	間もなく区に寄贈される予定である。まちの中心として、できるだけ早く公園として整備してもらうよう要望していく。
道路・街づくり	主要生活道路130号線拡幅の進捗状況について、私の家の前は130号線の拡幅が予定されているが、一向に進んでいるようには見えない。現在の進捗状況はどうなっているのか。	宅地の北側に主要生活道路130号線の計画がある。当該路線は、事業協力が得られる箇所から順次事業化を行っている。当該路線の用地取得の進捗率は約20%となっている。
公共施設	ふじみ荘の廃止について、お風呂、カラオケ、囲碁等、高齢者にとって楽しい場所であり、どういう状況か知りたい。また、建物等の様々なものが老朽化しており、ふるさと納税を使って改善してほしい。	ふじみ荘は老朽化が著しく、建て替える場合、法律上、同じ規模での建築物を建てることはできず、非常に費用もかかることから、廃止を検討している。大蔵第二運動場やひだまり友遊会館等、身近な施設を活用した高齢者の地域参加の促進を進めていきたい。
その他	ふるさと納税により税収が流出している問題を、若い世代に対して、どのようにPRしているのか。また、ふるさと納税のPR用Tシャツのロゴ「ふるセタ」が「ふるセタ」に見えてしまう。	40代以下の世代へのPRを検討し、スマートフォンから情報収集できる周知や広報板へのポスター掲示に取り組んできた。また、Tシャツによる周知のインパクトも情報の浸透に繋がると考えている。

○上馬地区

項目	質問・意見等(要旨)	回答要旨
まちづくり	高齢化、若年層の地域活動無関心、流入人口が多いことで、町会や民生委員等の活動に支障が出ている。若年層や他地域からの流入者等に対して、細かい対応をしてほしい。	希望丘青少年交流センターでは様々な催しの若者参加に繋げている。また、大学生が地域商店街のイベントや小学校、町会との交流をしている。今後も、若者の参加を促していきたい。
まちづくり	ポートランドのネイバーフッドアソシエーションのような住民参加の制度について、区は参考にできないのか。	ネイバーフッドアソシエーションにより、出店や町並みづくりのルール化等の活動がされ活気あるまちづくりが行われている。区の地域行政の検討において、地域資源の活用、自治活動の活発化を呼びかけたい。
まちづくり	時代とともに今の町会の区割りに弊害が出ていると思われる。町会長会議で、町会のあり方を具体的にみんなで話し合い、お互いが町会の枠を超えて協力していく必要がある。	区が区割りを整理することはできない。町会は、長い歴史の中でできた地縁を大切に自発的に作られてきた。町会・自治会の役割が地域にとって大きいことも認識。関心の高い防災等皆で取り組みできるように、区も協力していきたい。
まちづくり	人口が増えればいいのではなく2代、3代と住み続けてもらうことが大切。世田谷へ流入する新しい方にももっと責任をもって地域に貢献するような条例をつくってほしい。	住民参加を推進していけるよう、今回の条例検討の中で考えていきたい。
環境・清掃・リサイクル	上馬地区の空き家の枝に関する嘆願書について、区長は見ているか。	要望書や区長へのメールは確認している。今回の相談場所や所有者の状況など確認の上、できることを検討する。
環境・清掃・リサイクル	空き家にある樹木の道路まで伸びた枝や落ち葉を有志で片付けているが、大変困っている。区に陳情したが、個人所有で対応できないとの回答であった。せめて伸びている枝を区で切ってほしい。	区が民有地に直接行うことは難しく、所有者に速やかに適正管理を行うように働きかけしている。樹木が通学路等にほとんど倒れそうな危険な場合は、区で緊急措置を行っている。空き家のデメリット等を分かりやすくまとめた冊子を所有者に周知していく。

環境・清掃・リサイクル	ごみ収集日のカラス被害について、衛生面・景観面に問題が出ているので、退治をしてほしい。	カラス被害対策は優先順位が高い問題である。区のごみネットや商店街の夜間回収の取り組みにより、カラス被害は減少している。ごみネットは、まちづくりセンターで対応しているので相談いただきたい。
道路・街づくり	都では電柱地中化を環七の内側で計画しているが、世田谷通りの並木が電線と触れていて危険なので、区からも取り組みを進めてほしい。	電柱地中化は、区では10年計画を立て、39路線、東京2020大会会場の馬事公苑周辺、都市計画道路、本庁舎に至る災害時の緊急輸送路線を中心に整備予定。東京都は環七の内側を中心に計画しているが、本庁舎が停電とならないよう都に伝えている。
公共施設	駒沢小学校の校庭の材質がゴムチップのため、夏場は暑く、設置から15年近く経過による劣化もある。人工芝にしてほしい。	人工芝は雨の乾きは早い反面、夏は暑い。技術革新も進み、教育委員会も前向きに検討していると聞いている。ご意見は所管課に伝える。
公共施設	三軒茶屋小学校の管内に児童館が無く、近くの児童館に行くためには幹線道路を横断する必要があり大変なので、児童館を作ってほしい。	三軒茶屋が児童館のない地域であることは認識している。三軒茶屋のまちづくりや再開発も視野に、長いスパンの中でできることを検討する。
公共施設	三軒茶屋小学校は運動場も狭く、校長先生から児童の増加による教室不足の心配の話もあった。	今後も児童が増える見込みであり、早めの対応を改めて教育委員会に伝える。
公共施設	世田谷区民会館ホールについて、高齢者や車椅子の方にとって階段は大変。改築にあたっては、エレベーターを設置してほしい。	世田谷区民会館の改築では、ホワイエや楽屋は取り壊して新しくし、段差解消、エレベーターの設置を行う。
その他	ふるさと納税、核家族化、町会の高齢化等の様々な問題が学校、家庭にも関わっていること区民に認識してもらうことで改善に繋がるのではないか。	町会や青少年委員による学校でのまつり等の取り組みが、世代を繋ぎ、地区の問題解決にも繋がると考えられる。ふるさと納税等、区政が広く関わることを児童・生徒に伝えていく。

その他	なぜ、アメリカがホストタウンとして決まったのか教えてほしい。	区の活性化のため、東京都や組織委員会にキャンプ地としての紹介をお願いしたところ、アメリカから視察があり、大蔵運動場の良い評価を得てホストタウンとなった。
その他	東京2020大会に関して、10月の世田谷おもてなし交流事業はとても良い取り組みのため周知徹底した方がよい。	おもてなし交流実行委員会を中心にパレードやリレーを行い、盛り上げるとともに、東京2020大会後も人の繋がりが残るものにしていく。

○梅丘地区

項目	質問・意見等(要旨)	回答要旨
しくみづくり	本庁、支所、まちづくりセンターにそれぞれの機能・役割があり、オール世田谷で地域の課題に取り組めるのは、住民にとってもよいことだと思う。	地域行政検討時の議論を振り返り、住民の皆さんと共有しながら、条例の検討を進めていきたい。
防災	新 BOP で子どもを預かっている時に発災した場合、備蓄物品や毛布などがどこにあるのか、何が使えるのか、鍵の取扱いはどうなっているのか知りたい。	東日本大震災以降、教育委員会で子ども用として一定量の水とビスケットを各学校に備蓄している。学校と新BOPとで供給することについては打合せができていますので、校長や副校長にご確認いただきたい。
防災	避難所運営訓練で、マンホールトイレのテントをコンクリートの上にペグでとめるようにしているが刺さらない。トイレの数も多くテントの間隔が狭い。このような素朴な質問に答えてくれる窓口を知りたい。	マンホールトイレは、5～10基設置できるようになっている。テントの設置は、重りを置いて固定する方法もある。避難所運営に関することは、まちづくりセンターにお問い合わせいただきたい。
防災	避難所の発電機は小さくて、燃料もあまり備蓄されていない。学校や避難所に自家発電できる設備を確保していく計画はあるのか。	今年の夏で、全学校の体育館に冷暖房の設備が完了する予定になっている。電気とガスを使用するが、ガスは停電時も使用できるものを導入している。太陽光発電の電気をためるバッテリーや蓄電池の配備も計画している。燃料は消防法の関係で備蓄できる量が決まっているが、消防法の規制がかからないガスボンベを使用する発電機も備蓄している。
防災	避難所の仮設トイレは使いづらいため、建物内にあるトイレを使用できるのであれば避難所生活のストレスも軽減されるので、検討してほしい。	水道管や下水道管の耐震化はかなり進んでいるので、壊滅的な被害でなければ、室内のトイレも使える可能性がある。今後、避難所運営訓練の中で確認・検討していきたい。
防災	防災について質問したい時には、どこに連絡すればいいか。	北沢総合支所地域振興課地域振興・防災、又は梅丘まちづくりセンターへお問合せいただきたい。内容によっては、担当部署をご案内する。

防災	備蓄されている食品の消費期限が間近なもの有効利用について知りたい。	災害時に福祉避難所となる協定施設等で有効活用している。また、希望する他部署に配布し、有効活用を図っている。
安全・安心	平成28年に「再犯の防止等の推進に関する法律」が成立した。各自治体がそれぞれの立場で、施策推進の計画を定めなければならないが、世田谷区においても早く取り組んでほしい。	犯罪・非行をした人の立ち直り支援として、制度に基づき、臨時職員としての雇用を行った。再犯防止の明るい社会をつくっていくことは、必要と認識している。
福祉	社会福祉協議会、あんしんすこやかセンター、ボランティア協会は災害時の要支援者名簿がもらえないことに不安を感じていると思う。まちづくりセンターと一体となった取り組みを行うのであれば、名簿の管理についても検討してほしい。	まちづくりセンターでは、要支援者全てが掲載された名簿を管理し、拠点隊として集まる職員と連携して対応できる体制をつくっている。大規模な災害の発生もしくは発生の恐れがある場合は避難支援者と名簿の共有ができることになっている。
福祉	民生委員の後継者選びに苦労している。PTAも子どもが手から離れると働いたりして、引き受けてくれない。民生委員の欠員をどう充足したらよいか区で考えてほしい。	地域の担い手不足という全区的な課題であり、保健福祉部を中心に様々な対応を考えていきたい。
福祉	梅丘ボランティアビューローは築50年が経過し老朽化している。今後の計画はどうなるのか。福祉だけでなく災害の拠点にもなるため、移設できないか。	令和3～4年度に、1階の保育施設跡地をビューローの機能拡充として利用する予定になっている。
みどり・公園	烏山のプレーパークについては、火起こしができないと聞いた。火起こしは人間の生活の原点で、羽根木プレーパークでも同様のことが起こると困る。	地域の方と意見交換をしながら利用のルールを決め共存してきた歴史がある。地域の方、プレーパーク、行政とで解決に向けて話し合い、今後も子どもの声を大事に、地域の皆さんと一緒に運営していきたい。

みどり・公園	町会で緑道清掃を40数年間やってきたが、役員等の高齢化などでやむなく中止した。協定料金が改定されず、お手伝いの方へのお礼や清掃用具の購入など金銭面でも苦労した。	緑道や公園の清掃は、地域の皆様のお力をお借りしている状況で、協定料金は1㎡あたり10円をお願いしている。事業者に委託するような内容を地域の方をお願いするのは難しいため、できる範囲でお願いしている。いただいた意見を公園緑地課に伝える。
みどり・公園	自治会で緑道清掃をしているが、みんな高齢で参加者も増えない。豪徳寺駅前の花壇も、苗と水道代は区からもらっているが、水やりは交替でやっている。今後については区と相談したい。	花がらを摘んだり、水をやったりと日々の管理が大切になる。今後については、地域の方、公園管理事務所、公園緑地課等と話し合っていく必要がある。
道路・街づくり	梅ヶ丘駅北側の住宅地に風俗まがいの看板が立ったので警察に撤去してもらった。この地域は文教地域なので風俗まがいの営業を禁止できるようにしてほしい。	駅前には商業地、その周りは住宅地の用途地域に指定されており、当該地は風俗営業ができないことになっている。法令等に適合しているかどうか現状を確認した上で、違法ということであれば、警察等とも連携して対応していく。
道路・街づくり	三軒茶屋に観光案内所ができたが、下北沢や山下にもつくってほしい。豪徳寺は遠くから沢山の人々が来るが案内が不十分である。	まちなか観光は、区内の見どころなど、住んでいる人、訪れる人みんなが楽しめる場所を案内している。豪徳寺や世田谷八幡などの人気スポットについても、今後、案内の充実を進めていく。
道路・街づくり	「うめとぴあ」や羽根木公園に行くまでのサインについて、スマホを使ったタイプの音声案内ができるが、QRコードではなく、災害時のオフラインでも使える Uni-Voice を使ってほしい。	梅ヶ丘や豪徳寺、山下駅周辺は、ユニバーサルデザイン計画に基づき、案内サインや誘導ブロック等を設置し、アクセス向上に取り組んでいる。梅ヶ丘駅から「うめとぴあ」までは音声誘導を考えており、豪徳寺駅からのルートも検討していく。羽根木公園等への案内は、関係部門とも連携し、現地の確認・検証を行った上で検討していく。
道路・街づくり	梅ヶ丘駅南口の点字ブロックが維持管理できていない。梅丘まちづくりセンターまで敷設してほしい。	誘導ブロックについては、工事担当とも連携して確認・対応していきたい。

その他	ひだまり友遊会館でやっている将棋や麻雀などを区報で紹介していたが最近は見ない。事情があって載せない方針になったのか。知る機会が大事なので、掲載してほしい。	区報に載せないという方針はない。そのような声があることを担当所管に伝えておく。
-----	---	---

○代沢地区

項目	質問・意見等(要旨)	回答要旨
窓口・出張所	様々な助成の申請をパソコンから申請できるようにしてほしい。	ITの申請については、個人情報等におけるセキュリティの確保を担保し、自治体等の実施例を参考にしながら改善に努めたい。
窓口・出張所	行政相談委員をやっているが、役所でたらい回しにされたという相談をよく受ける。今度、区役所が新しくなるので、相談者が動かなくても相談ができるような体制にしてほしい。	新庁舎は関連する部署を同一または近接するフロアに配置することで、来庁者の動線を短くする計画としている。来庁者の負担を少なくする方策について検討していく。
まちづくり	当日配布資料の地区まちづくりの図に高齢者クラブが入っていない。町会・あんしんすこやかセンター・社会福祉協議会・まちづくりセンターと協力してやっていきたいので、忘れずに入れてほしい。	次回から入れるようにする。
まちづくり	町会主催の地域カフェを始めた。町会に来ない方も手伝ってくれる。あまり外に出ない方も参加してくれて、やって良かったと思う。	子育て広場などで、お母さん同士の友達ができる人もいる。高齢者だけでなく、様々な場所でいろんな人がつながっていくということが大事だと認識している。
防災	福生市の給食センターは、災害時にここから食料を配給できるようになっている。区の調理場についても防災機能を備えたものにしてほしい。	小学校は全校に給食室があるので、それも一つの資源になると考えている。
福祉	国民健康保険から後期高齢者保険に切り替わったら、保険証の材質が紙になった。プラスチック製にしてほしい。	後期高齢者医療制度の保険者である東京都後期高齢者医療広域連合に要望を伝える。
福祉	民生委員・児童委員の後任について、今は働いている人や家庭の事情がある人が多く、今後のことを考えると不安を感じる。区で何とかしてほしい。	他地区からもなり手がいないという話がある。区としても、民生委員・児童委員の活動について、どんな役割があるのか、やりがいなども含めて、区報などできちんと紹介し、担い手の幅を広げていきたい。

福祉	<p>発達障害の子どもがいて、今はパート社員で働いているが、高齢単身者となった時にどう支援していくか。年金で生活できる施設など、30年後を見越して整備を進めてほしい。</p>	<p>発達障害の方の就労後の支援は大きな課題である。8050問題も深刻化する中、居場所、仕事、暮らしの場などをトータルに考え、しくみをつくっていきたい。</p>
環境・清掃・リサイクル	<p>墨田区や横浜市では、AIを使ってごみを分別するシステムを導入しているが、世田谷区でも導入してほしい。</p>	<p>ご提案の内容については清掃・リサイクル部に伝える。</p>
環境・清掃・リサイクル	<p>資源ごみの持ち去りを見かけるが、どう対応したらよいか教えてほしい。</p>	<p>区では職員及び民間パトロールを実施するとともに、区内4警察署との取締りを実施している。資源の持ち去り行為を発見したときは、清掃・リサイクル部事業課にご連絡しいただきたい。</p>
みどり・公園	<p>郵政宿舎の跡地につくる公園は、防災機能を備えたものにしてほしい。</p>	<p>公園をつくる際には、かまどベンチやマンホールトイレの設置など、防災対応を検討していきたい。</p>
道路・街づくり	<p>補助26号線の計画により、街の環境が大きく変わる。都に様々な要望等をしているが、対応に不満がある。区からもきちんと対応するよう言ってほしい。</p>	<p>区では、補助26号線の整備に伴う沿道の街づくりについて、街づくり懇談会を開催し検討している。10月に街歩きをして出た意見も東京都に伝えているが、今日いただいた意見も含め、都に伝えていきたい。</p>
道路・街づくり	<p>郵政宿舎の跡地がどのようになるのか教えてほしい。</p>	<p>土地の所有者である国家公務員共済組合連合会が土地を手放すということなので、用地を取得し公園として整備していくことを考えている。</p>
道路・街づくり	<p>下北沢の駅前広場について、段差があって整備がされていない。使い勝手のよい広場にしてほしい。</p>	<p>用地の取得や完成後の使い方については意見をもらいながら進めている。段差を下げ、下水道、防火貯水槽、電線の地中化の工事を順次行う。将来は交通広場としてだけでなく、文化的な催しもできる設計・しくみにしていきたい。</p>

子ども・教育	池之上小学校の改築に伴い、旧北沢小学校が仮校舎となるが、通学時間が長くなる児童もいるため、スクールバスを導入してほしい。	教育委員会では、PTA や学校、警察とも一緒に見回りを行っており、安全対策を万全にしたいと考えている。池之上小学校を休憩場所にしたたり、集団登校も考えている。また、池之上小学校に警察の立ち寄り所の設置を協議している。現在のところ、スクールバスではなく、見守りを充実させることにより児童の安全を確保したいと考えている。
子ども・教育	全校が地域運営学校のため、風通しがよいと感じているが、心の悩みを相談したり、勉強の応援ができる子ども食堂のような施設をつくってほしい。	子ども食堂は、気軽に相談などができる場所として注目を集めている。区内でも 37 か所くらいがやっていて、どんどん広がってきている。
子ども・教育	東京2020組織委員会が半ば強制的に児童を観戦させようとしている。世田谷区はどう判断するのか。	東京2020大会の観戦は、全校に割当てがきている。子どもたちに参加の機会を与えたいが、各学校には、子どもたちの健康を第一に考えて判断するよう伝えている。
子ども・教育	太子堂調理場が工事中により、お弁当が配られているが、美味しくないので残すと聞いている。給食費を安くするより中身を充実させてほしい。	衛生管理上の問題で、おかずが冷めた状態で配送される。パンに変えたり、調理の仕方を変えたり、工夫をするよう業者には指導をしている。
子ども・教育	中学3年生の教室に新聞を届ける事業を始めたとのことだが、1年後に生徒たちがどのように変わったか、その成果を教えてください。	最近では新聞を読んだことがない子どもが多い。新聞はページをめくっていくと興味のある記事以外も目にすることができる良さもある。この成果については「せたがやの教育」などで伝えることを検討していく。
子ども・教育	中学校の補習授業について、全ての学校で同じカリキュラムになっている。必要に応じた授業にできないか。無駄を感じる。	世田谷区立中学校における補習としては、3年生を対象に土曜講習会がある。この講習会は、基礎・基本的な学力や進路の実現に向けた実践的な学力を身に付けるための取り組みで、習熟度別にクラスを編成し実施している。今後も児童・生徒の確かな学力の定着を図っていきたい。

子ども・教育	区内にある私立中学校にも、公立同様に教科書が配られているが、私立は独自の教科書を使用しているため、未使用の学校には配布を止めてほしい。	教科書は国の無償給与制度に基づき配布されている。対象は、国立、公立及び私立に在籍する全児童・生徒となっている。私立学校における教科書の活用状況について区は把握していないので、制度に関するご意見については、文部科学省に問い合わせしてほしい。
公共施設	池之上青少年会館と代沢地区会館の改修工事が同時期に行われたため、活動場所の確保が難しかった。今後は、そういうことがないように調整してほしい。	今後は工事が重ならないようにしたい。
公共施設	北沢タウンホールの改修後に駐輪場が入口から遠くなった。前のように戻せないか。	保健福祉センターの移転に伴い、乳幼児健診等健診実施時の駐輪スペースの確保や検診車が出入りする関係で、現在の位置となっている。ご理解いただきたい。
公共施設	本庁舎の建替えについて、世田谷総合支所も入るとのことだが、総合支所を外に出せば、面積をもっと抑えられるのではないか。	世田谷総合支所を三軒茶屋に移すことも検討したが、適地が見つからず、現在地で区役所とともに整備することにした。本庁舎は業務拡充に伴い庁舎が狭あい化し、近隣に庁舎機能が分散してきている。今回の整備を機に全ての機能を集約する。
公共施設	区民会館の席が狭いので、区役所の建替えの際に広くしてほしい。	ユニバーサルデザインの観点から、現在の約1200席から約900席に減らすことで座席空間を広くするとともに、各客席から舞台への視認性を確保する。
公共施設	公共施設を整備する際には、トイレにウォシュレットを付けてほしい。	多機能トイレにはウォシュレットを付けているが、清掃・衛生・費用面などから全トイレには付けられない。各施設と協議し、改修にあわせて整備をしていく。

公共施設	危機管理室について、災害時は、国・都・区と連携して対処できるよう、区役所の建替えにあわせて、もっと立派なものをつくってほしい。	新庁舎では、災害に迅速に対応するため、災害対策課を区長室に隣接して配置する。また、区長室は災害時の災害対策本部長室を、庁議室は災害対策本部会議室を兼ねるなど、諸室を有効活用する計画としている。東1期棟にこれらの機能を配置することで、工事期間中も災害対策機能を途切れることなく確保する。
その他	東京2020大会に関する事業を優先しすぎて、区の他の事業がおろそかになっているのではないか。	東京2020大会終了後も、国際交流の基盤や障害者スポーツの基盤、障害によって差別されない社会をつくるための取り組みをしていきたい。

○新代田地区

項目	質問・意見等(要旨)	回答要旨
しくみづくり	100万都市世田谷とあるが、どの位の人口が適正だというビジョンはあるのか。	100万都市を目指しているわけではない。特別区の場合、市町村に与えられている用途地域や課税等の権限がないことに問題があり声を上げていく必要があると考えている。
防災	台風第15号・19号があったが、避難所は住所地で定められているのか。また、11/9に梅丘中学校で避難所運営訓練が行われたが、何か課題は出たのか。	地震の時の避難所は、住所地で指定し、町会等地域の方に運営を依頼している。水害時の避難所は職員が開設することになっていたため、今回の台風では区が主導で避難所を27か所開設した。今後、運営方法やルールを検討していきたい。梅丘中学校の避難所運営訓練では、特に課題は出ていなかった。
防災	台風第19号で多摩川が氾濫したが、区は水門を閉める指示をしたのか。どのような対応になっているのか。	多摩川は国土交通省京浜河川事務所が管理しており、区は水防管理者になっている。台風第19号では多摩川の水位が上がったため水門を閉める判断をしたが、1か所閉められなかった。水門の開閉については難しい問題であるため、今後、専門家を交えて科学的に検証した上で、対策を検討していきたい。
防災	台風第19号の際、北沢タウンホールが避難所となったが、もっと近いところを避難所にして、ペットや介助犬の受け入れもしてほしい。また、民間施設を活用するなど、避難所を増やしてほしい。	台風第19号では避難所が足りず、ペットの受け入れも困難だった。今後改善を図りたい。民間施設の利用については、多くの方が避難できるよう、大学、都立高校などに協力を求めていきたい。
防災	台風第19号で防災無線が聞き取れなかった。インターネットに情報が出たようだが、高齢者は見ることができない。鮮明に聞こえるよう、地域ごとに情報を発信することはできないか。	防災無線は課題になっているため、改善していきたい。インターネットを見ることができない人向けに、企業にも相談し検討している。今回、北沢タウンホールにも問合せが多かったため、避難の要否や他の地域の避難所の案内などを行った。
防災	避難訓練に参加するのは高齢者ばかり。若者の参加をリードしてほしい。	若者の参加は、地域の課題でもあり、防災についても伝わりやすい方法を考えていきたい。

防災	避難所の場所など防災情報を、全戸配付している「ごみ収集チラシ」などに掲載し、住民に周知してはどうか。	ごみ収集カレンダーを配っているため、そこに避難所の情報を掲載すると分かりやすい。良いアイデアだと思う。ぜひ参考にさせていただく。
防災	防災無線が聞こえない。青パトも速過ぎて聞こえない。	青パト(24時間安全安心パトロール)は、防災無線が聞こえにくい場所へのフォローとして走らせた。警備会社に頼んでいるが、速度を下げてアナウンスするよう伝えていく。
防災	まちづくりセンターは地域包括ケア・行政手続・まちづくりの拠点となっているが、防災の視点からすると小・中学校を地域の拠点とすべきと思うがどうか。	地域行政制度について、防災を基軸に組み立てた方がいいという話だが、地震の際の避難所については小・中学校ということ定着している。風水害等について、住民の皆さんと相談し、しくみをつくっていききたい。
防災	台風の際は防災無線が聞こえないので、ラジオアプリを利用するなど、エフエム世田谷をうまく活用してはどうか。	エフエム世田谷では、台風第19号の際にも20分おきに災害情報を放送していた。タイムラグはあるが、「リスラジ」というアプリで聴くこともできる。今後もエフエム世田谷の認知度向上に力を入れていきたい。
防災	広域避難場所について、大原地区は駒場東大が指定されているが遠くて行かれない。和田堀給水場や消防学校など近いところに変更してもらえないか。	広域避難場所は東京都が指定しており、全体的に見直すことは難しい。災害対策課にも伝え、情報の出し方、PRの仕方などと合わせて、指定のあり方を検討していききたい。
防災	災害時の電気の確保はどうなっているのか。	避難所にはガソリンを燃料とした発電機があるが、今後、蓄電池などを増やしていきたい。いくつかの学校の体育館のエアコンはガスを使用し、停電しても使えるものを導入する方針。太陽光発電なども配置していきたい。
安全・安心	防犯カメラの維持経費を町会で負担するのは厳しい。現在の運用目的は、犯罪よりも児童の見守りが主となっているので、通学時のみ主要道路の通行を止めるなど、警察と検討してほしい。	防犯カメラの維持管理については、補助制度がある。主要道路の通学時の通行止めに関しては、スクールゾーンであれば、地域の方や学校と相談して、警察に申請してもらいたい。

福祉	児童相談所の敷地内に一時保護所もできるのか。120人規模で行うというのが適正な人数なのか。	一時保護所は、児童相談所とは別の場所に設置する。職員数は児童相談所と一時保護所を合わせて112人で、児童相談所の児童福祉司や児童心理司は国の基準を上回る配置としている。
福祉	公立保育園が統合し私立園が増えているが、預かる人数は増えているのか。	区では、保育待機児童解消とその継続のため、保育定員の拡大及び整備に取り組んでいる。
福祉	民間の保育園が運営できずに閉園する等の問題についてどう考えているか。また、保育の質の低下について対策はあるのか。	民間保育園の閉園問題については、認可外保育施設の指導権限を有する東京都と連携し、保育の質の確保に取り組んでいる。来年度から指導権限が区に移管されるため、引き続き指導・支援を行う。保育の質については、区で策定したガイドラインを基に保育理念・指針を関係者で共有するとともに、研修などを通じて質の確保・向上に取り組んでいる。
道路・街づくり	大原1丁目は不燃化特区に指定されているが、どのくらい助成されているのか。また今後の計画はあるのか。数値目標をわかりやすく示してほしい。	不燃化特区については建替え助成を行っており、目標値は不燃化領域率で70%を目指している。平成30年度末の不燃化領域率は、北沢5丁目・大原1丁目地区で57.1%、北沢3・4丁目地区で58.4%となっている。今後の計画としては、道路の拡張や災害時の避難場所などソフトの部分も重要で、基盤整備と合わせて進めていく。
交通	新代田地区から本庁舎は行きづらい。北沢地域から本庁舎方面へ行くコミュニティバスを運行してほしい。	区内の交通ネットワークについては、高齢者の移動手段として要望が多く出ており、今、検討している。梅ヶ丘～等々力路線のバスが走っているが、利用者が増えれば本数も増えるので是非利用してほしい。コミュニティバスについては今後も取り組んでいく。
その他	作曲家の古関裕而氏が、世田谷代田に住んでいたこともあり、朝ドラが代田を舞台に始まるので、世田谷代田が盛り上がりたがると思っている。	世田谷代田がクローズアップされるのであれば、皆で盛り上げていきたい。

その他	ボーイスカウトとして平成15年から区と災害後方支援の協定を結んでいる。今まで旧守山小学校の裏庭に置いていた倉庫を、まもりやまテラスに置かせてほしい。	敷地内には、建築基準法上、新たな建物を建てることができない。まもりやまテラスは、地域住民による準備会議が運営等を検討しているので、そちらに参加して、施設の中に物品が置けるよう、相談してみしてほしい。
その他	世田谷代田駅前にダイダラボッチの足跡ができるが、本家本元は旧守山小学校の裏になるので、そこに看板などを建ててほしい。	世田谷代田駅駅前広場については、来年度にダイダラボッチの足跡を作る。それに伴って、地域の方々にはイベントや街歩きなど色々なアイデアを出していただいている。表示についても皆さんと一緒に考えていきたい。

○北沢地区

項目	質問・意見等(要旨)	回答要旨
まちづくり	区から町会への依頼ごとが色々あるが、町会への加入者が少なく、皆、高齢であるため、人手が足らず、思うように活動ができない。	町会・自治会の皆さんには区からお願ひすることが多く大変ご苦勞をおかけしている。高齢化の問題については、世代交代の裾野を広げられるようなしくみを考え、取り組んでいきたい。
まちづくり	「ココロン・さくら」を運営している。地区で活動するにあたり、会場の確保に不安がある。	区民集会施設には限りがある。こうした中、町会所有の会館や教会の講堂等を借用し活動している団体もある。今後、民間の施設も視野に入れ、区民の皆様からも情報をいただきながら、新たな活動場所の確保に努めていく。
まちづくり	引っ越してくる若い家族は自治会に加入しないので、コミュニティができない。古くからこの地に住む住民と地域のつながりをつくるにはどうしたらよいか。	地域のコミュニティをつくるには、子どもたちや高齢者の見守り、災害時の助け合いなど、近隣の住民同士が自助・共助の基で活動することが何よりも重要と考えている。町会・自治会への加入を強制することができないため、ご意見は町会長会議などで伝えていく。
防災	旧北沢小学校の跡地利用については、高齢者が避難する際の中継所としての場所を確保してほしい。	旧北沢小学校は、地域からのご意見等を踏まえ、北沢中学校第2校舎や地域利用、災害時の避難所などで活用している。令和2年4月より、池之上小学校の改築時の仮校舎として活用するが、その後の利用方法等については、いただいたご意見等も踏まえ、引き続き検討する。
福祉	昨年7月の区報に、保育園や高齢者施設を整備する土地や建物を探しているとあったので、空き家の情報を提供したが、話が進まない。	物件の所有者から直接ご相談をいただく必要がある。活用を検討している方がいれば、担当所管に相談するよう伝えてほしい。いずれも諸条件があり、必ずしも希望に添えない場合がある。

道路・街づくり	東北沢駅付近の小田急が計画するホテル等について十分な説明がない。個別対応ではなく、説明会を開くべき。区も小田急の計画等を説明するべき。	平成28年度から北沢デザイン会議を開催しており、平成30年7月からは小田急や京王からも説明してもらい、情報共有に努めている。ホテルについては、昨年5月の説明会后、個別に対応していると小田急から聞いているが、再度、要望は小田急に伝えていく。区も対応していく。
道路・街づくり	小田急線上部については、周辺と調和した街づくりを進めるとの話だったが、小田急の商業施設等に変更し近隣住民に明確な説明がない。区で説明会を実現してほしい。	
道路・街づくり	小田急線上部は区と小田急がゾーニング決定し、東北沢駅付近はホテルなどで小田急が利用することになったが、このような土地利用が許されるのか。	上部利用に関する情報が不足する中、北沢PR戦略会議でも情報共有の場をつくってきた。できた後の運営方法など、地域でのルールづくりも必要。事業者には、しっかり情報提供するよう伝える。
道路・街づくり	小田急線上部にもっと緑を増やしてほしい。立体緑道の補助金を使って東北沢駅前をロータリーではなく緑の公園にしてほしい。避難路も空間を広げて緑の基軸らしいものをつくってほしい。	壁面緑化や四季折々の花を植えるなど、市街地ならではの緑化に取り組んでいきたい。地域の方にも助成制度をご利用いただき、緑視率を高めたい。東北沢のロータリーを公園にというご提案については、竣工直前のためできないが、緑や空間が少ないというご指摘については留意していきたい。
道路・街づくり	小田急線上部計画については、知っている人のほうが少ない。工事中の壁にポスターを貼るなどして、未来像を共有できるようにしてほしい。	北沢デザイン会議や北沢PR戦略会議で情報共有と意見交換の場を設けてきた。区の整備部分については、北沢デザインガイドをつくり、公園や通路等をつくる方向で進めている。案内所やホームページ、テレビでも紹介しているが、PR方法については貴重な提案として受け止めたい。
道路・街づくり	3月20日に小田急線上部でこども食堂まつりを行う。線路跡地や都市計画道路上の空き地に子どもの遊べる場所を設けてほしい。エリアマネジメントが弱い。若い人が興味を持てる計画をつくってほしい。	こども食堂まつりのような機会を通じて担い手が増えたり、ネットワークが広がること、また、線路跡地等で活動ができるということにつながればと思う。エリアマネジメントによる多様な方の参加を図っていきたい。

道路・街づくり	地域の特色を活かしたまちづくりが必要で、東北沢については、ホテルを避難所として利用するか、カフェの設置とか、緑のこととか、目指すべき方向をつくるのが第一歩である。	この地域は、まちづくりの中で若い世代が入ってくる可能性があると思うので、従来のやり方にこだわらず、支援や工夫をしていきたい。
道路・街づくり	下北沢駅前の区有地（旧食品市場跡地）について、鍵がかかっている時間が長いので、有償で団体に鍵の管理を委託してはどうか。	下北沢駅前の旧食品市場跡地については、暫定的に街の賑わいを創出するため商店街と協定を結び、維持管理を依頼している。令和2年度から駅前広場の整備に向けた工事が始まるので、今後も工事に支障が無い範囲で活用を図っていく。
道路・街づくり	不燃化特区助成制度は、大震災時に焼失しないまちを目指すはずなのに、この制度を利用して建てられた家は、庭や木々がなく隣家との間もかなり狭い。	制度の導入により不燃領域率は上昇している。住宅地の細分化を防ぐため、用途地域ごとに敷地面積の最低限度を定めたり、新たな防火規制区域の指定、防火性の高い建築物への誘導、建替時には緊急車両が進入できる道路整備を進めている。また、300㎡以上の建築敷地に緑地面積を義務付けたり、助成制度などでみどりを増やす取り組みを行っている。
子ども・教育	まちづくりの中心は小学校だったため、廃校の影響は大きい。池之上小学校改築後、北沢小学校をもとに戻してほしい。	北沢小学校は、地域の方々と話し合いを行い、平成30年4月に統合した。現在は、池之上小学校の改築に伴い、仮校舎として活用することが決まっている。その後の利用については、地域の方々と意見交換会を行い、検討を進めているところである。
子ども・教育	学校の建替が多いため、児童数のシミュレーションをしてほしい。	学区域ごとの児童数の推計を実施している。下北沢小学校の学区域においては、世田谷区全般の傾向と同じく児童数の微増傾向が続いているが、普通教室を確保することで対応が可能である。

その他	車座集会は、区長と区民の意見交換会であるはずだが、参加者に比べて、区の職員が多過ぎる。	多様な質問ができるため、なるべく答えられるよう区の幹部職員が出席している。もう少しコンパクトな形で、多世代の方が参加できるよう工夫も必要だと思う。
その他	ふるさと納税による区への影響について、区民が自分の問題として考えられるように、もっと可視化してPRしてほしい。	ふるさと納税は極めて大きな影響があり、危機的な状況にある。人口が増えれば納税も増えるが、支出（サービス）も増えるので、どんどんPR する必要がある。見て分かるようなPR については参考にする。
その他	車座集会の定員を40人と限定しており、参加者が少ないうえ、若い人が少ない。もっと区民に知らせるべき。	定員は会場が広ければ増やすことはできるが、2時間で15人位にししかお答えできない。参加者が少ないことはPR 不足もあるが、車座の内容が分かれば、参加したいという人もいる。4年に1度でなく、もう少し日常不断に実施していければいいと思う。
その他	区は広報に力を入れるべきだと思う。子育て世代も集会や活動に参加したいと思う。新聞を取っていない人が多いので、区報を全世帯に配ってはどうか。	車座集会も区報やホームページで周知したが、定員を超えるところはない。内容を知らせ切れていないという問題がある。区報の全戸配布については、新聞の部数も非常に減ってきているので考えたい。

○松原地区

項目	質問・意見等(要旨)	回答要旨
まちづくりセンター	封筒に北沢総合支所地域振興課松原まちづくりセンターと書いてあるが、松原まちづくりセンターがどういう位置付けなのか分からない。	区を5つの地域に分け総合支所がある。北沢地域をさらに6つの地区に分け、まちづくりの拠点としてまちづくりセンターがある。松原地区には松原まちづくりセンターを設置しており、地区をまとめている。
まちづくりセンター	戸籍証明書の取得や療養費の給付手続きは、北沢タウンホールまで行かなければならず、高齢者には負担なため、まちづくりセンターでできるよう検討してほしい。	戸籍の証明書については、マイナンバーカードがあれば、3月10日からコンビニにあるマルチコピー機で取ることができる。地域行政制度の条例化を進めるにあたり、何をどこでやるのがよいか、ご意見を聞きながら検討していく。
まちづくり	地域の絆の交流会について、昔は小さい単位でやっていたが、最近は区全体でやっているの、団体同士の交流ができなくなっている。	昨年はワークショップ方式で行い、他地域の活動を知ることができた。より身近なところで意見交換の機会をつくってほしいというご意見として受け止めたい。
防災	避難所運営訓練を梅丘中学校で行っているが、ペットの受入れについて、犬や猫だけでなく、爬虫類や豚、ポニーなどもいるので課題になっている。	台風の時にペットを連れて避難できなかったことについては批判があった。現在、避難所運営の仕方なども住民の方と一緒に相談してできるよう検討している。
防災	避難所運営訓練について、回を重ねるごとに学校やPTAの理解も高まってきたが参加者が少ない。住民への声掛けの仕方など、他地区の状況も知りたい。	他の地区も同じで、高齢者が多く、若い人の参加が少ない。PTAの理解が鍵となるので、小中学生の保護者の方との連携を図ってほしい。若い世代はスマートフォンで情報を得るので、デジタル情報による支援を考えていかないといけない。
防災	避難所運営訓練を土曜日の午前に実施しているが、参加できない人もいるので、午後にするなど改善をしてもらいたい。	日程の調整は、学校の体育館を使用する関係もあり難しいと思うが、周知方法を工夫するなど、まちづくりセンターに相談してほしい。
防災	松原地区には防火用の水利（貯水槽）が少ない。京王線の高架化等に伴い、大型の貯水槽を設置してほしい。	延焼の危険性が高いところには防火水槽の設置をしてきたが、私有地については難しい。松原地区は住宅が密集しているので、防火水槽を設置する方向で考えている。

福祉	羽根木公園や赤松公園にはホームレスがいる。ホームレスの対応はどこに相談すればよいか。	生活福祉担当課が公園管理事務所とも連携し対応しているが、生活に困窮しているのであれば、総合支所の生活支援課が担当となる。また、東京都と23区の共同事業で、住まいの提供や就労支援につなげるための対策をとっており、定期的に専門職員が巡回し、案内をしている。
福祉	将来、5人に1人が認知症になると言われているが、医療費や介護の問題、認知症の問題について区はどのように考えているのか。	「うめとぴあ」の中に認知症在宅生活サポートセンターができる。問題解決には、ご近所・コミュニティの力も必要になる。会議室やカフェもできるので、認知症の方、家族の方がつながりを持つ場として使ってほしい。
道路・街づくり	明大前の駅前広場については、色々な会議に出席しているが、区は非常に消極的で、我々の意見を取り入れない形になっていて、話が進んでいない。	道路、駅前広場に伴う再開発について、最近では膠着している状態だとご意見をいただいた。権利者の方たちと引き続き一緒に考えていきたい。立体道路は新しい制度ということもあり、地域の合意形成に時間はかかると思うが、しっかり支援し、対応していきたい。
道路・街づくり	駅前広場の計画は、立体道路制度を改正して生活再建の目途は立ったが、防災、教育と文化などを街づくりのコンセプトしている事業なので、迅速に進めてほしい。	
道路・街づくり	京王線の高架化については、道路のこと、広場のことなど、大きな問題が沢山あるので、身近に相談できる窓口が必要である。	総合支所の街づくり課に相談していただきたい。地元の声を聞きながら、京王電鉄と区で協議していかなければいけない。取り組む体制を強化していきたい。
道路・街づくり	明大和泉キャンパスのところの歩道橋が老朽化している。地震で倒壊すると甲州街道が横断できない。国交省に建て替えの交渉をしているが、進展がないので区からも要請してほしい。	歩道橋は幅も狭く老朽化しているので、明治大学からも要請を受けている。国交省では昨年あたりから設計検討の調査費を予算化して検討していると思う。平常時だけでなく災害時のことも考えた設計にするよう国交省に伝えておく。
交通	京王線の踏切が無くなると南北の交通量が増える。役所の垣根を外したPTやワーキンググループ等で議論し、道路の安全を確保してほしい。	京王線連続立体事業が進むと、様々な問題が並行して起こると思うので、関係者が集まって協議し、それぞれの情報を横に繋げていく体制をとっていきたい。

公共施設	松原ふれあいの家について、沢山の人が集まり、色々な活動を活発に行っている。ここは駅から近く、地の利がいいので、存続してほしい。	道路計画線上にあるため、道路ができた以後は松原小学校の敷地内に建設される複合施設に移転することになる。駅から多少遠くなるが、活動を続けることができる。
その他	子ども基金への寄付を考えているが、その年度の予算は増えず、区全体の中で使われるという説明を受けた。子ども基金にプラスされないのか。	当該年度の予算として増えることにはならないが、基金として積み立てられる。使い道が決まると翌年度以降の予算として計上される。寄付金については、該当の基金に積み立てられ、その目的で使われる。
その他	新聞を取るのをやめたら、区報が来ない。主要駅に置いている区もあるが、世田谷区は置いていないのか。	区報については、駅やコンビニ、郵便局等にも置いている。最近は新聞を取らない家が増えてきたので、配布方法については、課題として受け止めている。
その他	千葉県の某自治体では地方交付税が結構入ってきているらしいが、地方交付税の必要性を精査した上で、ふるさと納税の是非を問うたらどうか。	ふるさと納税は、自治体を応援するというのが元々の趣旨だったはず。控除された減収の穴埋めが地方交付税で行われるが、区には適用されない。早くこの制度を変えるようアピールしていきたい。
その他	以前は区民との意見交換会が沢山あったと思う。最近は低迷しているのか、識者の話を聞く部分が増えているので、再検討してほしい。	意見交換会については、基調講演などがあって皆さんの意見を聞く時間が短くなり形骸化しているのではというご指摘だと思う。いろいろな政策を決める際には、意見を聞く機会を設けており、また無作為抽出型の区民ワークショップなどを開催している。
その他	区役所内での情報共有が少ないと思う。保健所の被災動物ボランティア研修会の日には松原小学校の避難所運営訓練が重なったため、ボランティアに訓練への参加を呼びかけられなかった。	活動が重ならないようにということは受け止めたい。

○松沢地区

項目	質問・意見等(要旨)	回答要旨
まちづくり	町会・自治会は行政の一部として機能してきた。無くてはならない組織なら「任意団体」から「強制団体」に変更してはどうか。	最高裁判所より「町内会は強制加入団体ではない」と判決が出ており、変更は難しいと考えている。
防災	桜上水ガーデンズは2,000人を超える住人がいるため、在宅避難を呼びかけているが、長期化した場合の支援物資の確保について、区はどのように考えているか。	区では、免震構造であれば在宅避難を呼びかけている。避難所の備蓄物品にも限りがある。その後の物資の受入れ・配布も避難所を拠点に行うため、地域コミュニティの中で対応していただきたい。
防災	区の計画に地域防災計画、国民保護計画、国土強靱化地域計画があるが、関連性について教えてほしい。	各計画はそれぞれ別々に定められている。
防災	町会として、災害時に怪我人が出た場合、どう対処したらいいか。	医療救護所での処置やトリアージ、病院との連携など、色々想定しながら訓練を実施していく必要がある。多くの方に救命の講習を受けていただき、知識を持った方を増やしていくことも重要と考えている。
防災	災害時の傷病や精神ケアの対応として、病院以外のサポートを区でもやってほしい。	台風第19号時には、浸水被害を受けた地域を保健師やあんしんすこやかセンター職員が訪問した。大規模な被害を想定して東京医療センターではトリアージ訓練を行っている。開業医も医療救護所に派遣される。そのほか、都道府県の消防・医療スタッフの応援、ボランティアの受け入れなど重層的な取り組みを考えていきたい。
防災	避難所体制について、日中は高齢者と子どもしかいないので、地域の中学生・高校生・大学生の力の活用が重要と考える。	区内には17の大学があり約7万人の学生がいる。初期消火の際は力になるので、学生とのつながりを強くしていきたい。

防災	空き家が増えている。区で借り上げて、風水害のときの地域住民（高齢者）の避難場所の一つとして、活用を考えてほしい。	社協のふれあいの家や、トラストまちづくりの地域共生の家、空き家等地域貢献活用事業による空き家の登録も進めている。障害やハンディのある方、高齢の方など、安心して避難できるような環境づくりを検討している。
防災	災害時の医療体制について、町の開業医のネットワークを作してほしい。	令和2年4月に梅ヶ丘拠点「うめとびあ」の中に区複合棟「保健医療福祉総合プラザ」が開設される。世田谷区医師会も入り、災害時の医療拠点として医療救護の司令塔となる予定である。開業医とも連携することになり、ここから医療救護所へ医療チームが派遣される。薬剤師会と連携して薬などの備蓄も進めていく計画もある。
防災	松沢地区社協では、松沢中学校と緑丘中学校の生徒に救命講習を受けてもらっている。区の上級救命講習は平日のため若い人が受講できない。土日の実施を検討してほしい。	指導は消防署が行っている。土日の実施については消防署に相談する必要がある。
防災	地震発生時の混乱を防ぐため、簡易トイレなどのゴミ収集計画や上下水道の利用可否などをマニュアル化し、マンション居住者に周知するための助言等をお願いしたい。	「防災管理に係る消防計画」の作成を推奨する。この計画は、消防のみならず震災対策についても網羅しており、震災に備えての事前計画や震災時の活動計画などを定め、居住者に周知することで、発災時の被害を最小限に抑える一助となる。
防災	大規模な風水害時には、地区会館も避難所としての活用が必要だと思うので、システムの構築をお願いしたい。避難場所として空き家を活用することも提案したい。	避難・避難所のあり方については、台風第19号の被害を受けて、見直しを進めている。また、区立の集会施設等の一部を水害時の避難所としてあらかじめ指定する方向で検討している。ご提案の空き家の活用については、今後の参考とさせていただきたい。
防災	桜上水3丁目の区営アパート敷地内に倉庫を作り、水を備蓄できないか。	当該地は、公営住宅法により区営住宅以外の用途で敷地を利用することができない。

安全・安心	国民保護計画で想定している武力組織とは、どこの国または組織を想定しているのか。	武力組織は様々なパターンが想定されるため、明確にしていない。
福祉	介護者が精神的・肉体的に健康で豊かな暮らしをしていれば、介護の問題はかなり減少すると思う。区において介護者をサポートする計画にはどのようなものがあるか。	第7期世田谷区高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画において、ショートステイなどの充実、相談・傾聴・助言などの支援、介護者の集いへの支援、介護技術の講習などといった項目を掲げ、介護者の身体的・精神的な負担を軽減できるよう支援に取り組んでいる。
福祉	子ども食堂があちこちに出来ている。生活のしつけ、その日にあった出来事を家族に話す場が失われていくような気がする。	子育て家庭の孤立化が懸念され、家族や社会が多様化する中、子ども食堂を通じて子育て家庭が地域の方と交流するきっかけをつくるのが大切と考える。親が子育て力を発揮でき、子どもが健やかに成長・自立できるよう、様々な状況に配慮した支援を充実していきたい。
環境・清掃・リサイクル	東京2020大会では、ごみの対策が重要。区のSDGsの取り組みもしっかり行ってほしい。	ごみの処理やSDGsの取り組みについては、教育現場で実験事業などを行っている。大人も含めて、区の環境政策と合わせてSDGsを発信していきたい。
環境・清掃・リサイクル	フードロスを防ぐために、使わない食材をいつでも持って行かれる（登録すればそこから持ち帰ることが出来る）場所を作れないか。	区では現在、エコプラザ用賀、リサイクル千歳台や清掃・リサイクル部、各総合支所の地域振興課、松沢まちづくりセンターなどで、家庭で消費しきれない未使用食品等（受付条件あり）を回収し、地域の福祉団体等に提供するフードドライブを実施している。ご提案いただいた”持ち帰り”については食品の回収量が不安定で、保管・配布スペース等の問題もあるため実施していない。

環境・清掃・リサイクル	温暖化対策のためのイベントを開催しているか。区全体で夜間短時間、可能な家庭だけ電気を消す時間をつくるイベントを実施してはどうか。	「省エネポイントアクション」を実施し、家庭や事業所で継続的に電気やガスの省エネに取り組んでいただいている。また、省エネ住宅を紹介するセミナーや、子どもたちが地球温暖化問題について学ぶワークショップ等を開催している。ご提案については、今後の施策の参考とさせていただきたい。
みどり・公園	相続により土地が細分化されると人口は増えるが緑は減る。「みどり33」を推進するために、建築確認を出すときに樹木を減らさないよう指導できないか。	300㎡以上の宅地には緑を植えないと建築確認がおりない政策をとっているが、300㎡未満の宅地には制約がないため、お願いをしている状況である。シンボルツリーや生垣などの補助金制度や保存樹木も含めてPRしていきたい。
道路・街づくり	東京に人口が集中し過ぎている。災害が起きることを考えると、糸魚川大火の例もあるので、より安全・安心な家を建てることが重要ではないか。	木造家屋密集地域は、東京都から不燃化特区の指定を受け、不燃領域率70%を目指している。糸魚川大火では各家庭に備えられた防災スピーカーによって、近隣の人が声を掛け合って避難した。今後も道路の拡張や耐火建築など様々な工夫をしながら防災の街づくりを進めていく。
道路・街づくり	京王線の高架化に伴い、桜上水駅横の水道道路の交通量が増えることが予想される。ホームから直接4丁目側に出られるなど安全に配慮した慎重な計画をお願いしたい。	京王線の高架化に伴う駅周辺の歩行者等の安全確保については、地域の課題として認識している。高架化の事業者である東京都・京王電鉄と連携しながら、交通管理者である警察とも対策について協議をし、駅周辺の安全確保に努めていく。
子ども・教育	町会で行う公園の清掃活動に、高校生と保育園児が参加している。このような交流の機会が減っているので、子育てに関する教育や取り組みを増やしてほしい。	せたがや子育てネットなど、地域の子育て支援団体と協働して、一部の区立中学校に赤ちゃんを連れていく取り組みを行っている。高校生と保育園児の交流は非常に良い教育基盤になると思うので、もっと広げていきたい。

子ども・教育	夏休みのラジオ体操に高校生がボランティアで参加してくれて、子どもたちと遊んでくれる。このような交流の機会を増やしてほしい。	異なる年齢の子どもたちの交流は大切である。区としても応援していきたい。
子ども・教育	幼稚園難民という言葉があるが、3歳児が入園できなかったという人が回りに多くいる。親がゆったりした気持ちで幼稚園を探せる環境をつくってほしい。	早朝から保護者が入園申し込みに並んでいる園もあるということは承知している。区内の幼児の人数は増えており、幼保無償化による影響でニーズが高まることが予想される。幼児教育・保育に困っている方の立場に立って、不安を解消できるよう取り組んでいきたい。
その他	国では電子政府を目指しているが、区では電子化によって区役所の組織はどう変わるのか。	事務手続きや手数料の支払いが機械化されるのは良いことだと考えている。住民との意思疎通など機械にはできないことに、職員が力を入れていく必要がある。
その他	おもてなし交流参加プロジェクトの実行委員会メンバーに若い人、女性、ハンディのある方も加えてほしい。共生社会ホストタウンとして最も大切なのは警備・安全なので、大会前の交流等は最小限にすべきである。	実行委員会メンバーのご指摘については検討する。交流は昨年から実施している。交流は大会期間には難しいが、大会終了後も継続していきたい。また区内在中の外国人とも、東京2020大会時だけでなく、色々な形で交流を深めていきたいと考えている。
その他	パブリックコメントは読んでいるのか。結果をフィードバックしてほしい。	パブリックコメント（区民意見提出手続）では、いただいたご意見は、担当所管で取りまとめ、意見の概要と区の考え方等結果を区ホームページ等で公表している。

○奥沢地区

項目	質問・意見等(要旨)	回答要旨
窓口・出張所	総合支所から離れていて不便である。マイナンバーカードの手続きなど、地区で手続きができるようにしてほしい。	マイナンバーカードの申請受付は5地域に臨時窓口を開設している。今後も実施していく。
まちづくり	ゆっくりできるまちかど広場や緑など、この地区らしいまちづくりを商店会、自治会等と力を合わせて具体化できればと思う。	住民の手による地区のモデルづくり、ビジョンづくりを掲げて進めていただけたらと思う。
まちづくり	鉄道駅舎の建て替えの際に区施設を合築する等、官民連携して総合的なまちづくりを進めてほしい。	民間施設に公共機能を付帯できないか問題意識を持っている。区民の声を受け止め提案されたことが通っていくような風通しの良い行政を目指していく。
防災	10年前に5年間地域防災リーダーの養成講座、フォローアップがあり、とても良かった。受講者は高齢化しているので新しい人を対象に行ってほしい。	地域防災リーダーについては、毎年20人くらい推薦をもらい補助金を出している。ここ数年は、被災地での女性視点が大事であると考え女性リーダーの養成を行っている。
安全・安心	防災無線塔から放送される内容が全然聞き取れないことがある。	無線塔からの放送は、天候や施設条件により聞きにくい場合がある。現在、放送をアナログからより聞き取りやすいデジタル方式に変更中である。また、放送内容は区のホームページ等に掲載しているので併せて確認していただきたい。
福祉	虐待問題について過去の事例が教訓になっていない。児童相談所や警察と協働しながら地域の声を聞くネットワークを作ってはどうか。	児童養護施設で保護されている児童の90%が虐待による保護である。施設を出た後の家賃や授業料を、区のふるさと納税で支援している。養育家庭はまだ少数なので、里親制度等による支援にも取り組んでいく
福祉	車座集会は地域の声を聞く場であり、三者連携の観点からもあんしんすこやかセンターや社会福祉協議会の出席を希望する。	良い提案として受け止める。
福祉	運営している子ども食堂は子どもだけではなく、地区内の親子が孤立しない居場所のスペースとなっている。	親子で社会的・地域的に孤立しているケースが多く、孤立しないような地域のつながりとして子ども食堂は重要と考えている。

道路・街づくり	カーブミラーが町会内に98本あるが、町内に4車線の道路があるため往来が多い箇所を増設してほしい。	隅切りが無く見通しが悪い交差点等が設置条件となる。要望があれば土木管理事務所が現場確認し、必要性の有無、周辺住民の同意など総合的に判断し設置することになる。
交通	地域の方にアンケートを行った結果、地域内のミニバスの運行を希望する意見があった。	元気高齢者を増やすためにも移動手段が必要と考えている。バス事業者にとって採算が取れないような路線について、どう公費を投入し、運行していくかモデル実施している状況であるが、事業者や警察等と調整して本実施につなげていきたい。
子ども・教育	地域の次の担い手を育成するためにも青少年の居場所・交流の場を作してほしい。学び舎の9年教育は、学校により、情報発信にばらつきがある。区として学校をフォローしてほしい。	既にある場所を使って青少年交流の場を広げるしくみを考えていく。各々の学校の情報発信力に委ねるのではなく、情報発信できるようなしくみを2年後に予定している教育支援センターで作る予定である。
公共施設	子どもが遊べる場所が少なく、幼児から高学年までが狭い公園で遊んでいて危険である。児童館や大きい子がボールで遊べるような遊び場、それらに隣接する駐輪場を設置してほしい。	子どもの居場所、遊び場がとても大事と認識している。地域行政の観点からも総合支所が中心になってご意見をいただいきたい。
公共施設	児童館が近くにない。一番近い児童館まで3kmあり、子どもの足では遠すぎる。不公平感がある。改築されるまちづくりセンター跡地に児童館を要望する。	児童館および広場等の付帯設備を作るには、まちづくりセンター跡地では狭いため難しい状況であるが、児童館の要望が強い地域として考えていきたい。
公共施設	区施設を複合化、高層化してほしい。小学校を複合化し、子どもや高齢者の施設を作ってはどうか。	学校建替えの際は複合化の検討を行っている。学校は第一種低層住居専用地域に多く、高層化するには周辺住民の理解が必要である。1,000人を超える新BOP等もあり、子どもたちのスペースを広く取ることも重要になる。
その他	介護予防、認知症予防の男性の体操教室を開催している。毎回参加者が多く、会場が狭い。地区の中学校を使用させてほしい。	有料老人ホームのスペースを地域に開放し、利用している所もある。支所内で利活用できる施設がないか調整し、検討していきたい。

その他	地区で女性の健康体操を続けている。小・中学校を会場として使用できるよう、区から学校に要請してほしい。	教育委員会と調整し、地域の方々に相談させていただいて、道筋をつけていきたい。
-----	--	--

〇九品仏地区

項目	質問・意見等(要旨)	回答要旨
まちづくり	今後、行政需要が増えて、税収が落ち込み、行政だけでは限界。地域の新しいアイデアで行政と地域が協働していけるような地域行政制度を求める。	人口増、高齢化によるサービスの需要増が見込まれる。若い世代も参加しやすい新しい取り組みなどのヒントをいただき、進めていきたい。
まちづくり	自治会で広報誌を発行し、様々な情報を伝えているが、区も区民参加の促進や福祉の相談等行政の情報を一般区民にわかりやすく伝えてもらいたい。	区報やチラシだけではない広報の手法を工夫しなければならない。福祉の相談窓口に寄せられた相談は保健福祉センター4課で引継ぎ、解決するシステムを構築している。
まちづくり	高齢化が進み将来の担い手が懸念される。「地域共生社会」に向けて若い人への取り組みを聞きたい。	若い世代が参加できるように広報のやり方を工夫し、情報発信していかなければと考えている。
まちづくり	まちづくりNPOで30年くらい活動している。地域資源開発のためにも地域包括ケアシステムの生活支援コーディネーターにNPOも参画できるようにならないか。	生活支援コーディネーターの業務のみを切り離れたNPOの参画は難しいが、様々な形でご支援をいただけるようにしていきたい。
まちづくり	子どもを通じて若い人を地域の担い手にするため、学校の教室を地域に向けて開放してもらえないか。	教室の開放は課題として受け止める。今、区内大学は学生と共に地域にどう関わるか考えている。大学を活用することは、新たな担い手を創出する一手法かと考えている。
まちづくり	町の銭湯が無くなってきた。高齢者一人暮らしの方等が利用してきたが、銭湯が無くなると住み続けられない。区として経営の援助をお願いしたい。	災害時にも銭湯には重要な役割があると思う。経営を支援していくことはハードルが高いが、課題として検討したい。
防災	毎年避難所訓練を行っている。地震時の避難所開設は準備しているが、台風の際は避難所の運営に関わらなくてもよいか。	水害は職員が避難所開設・運営を行うことになっていたが、今回5300人の方が避難された。職員だけの運営は現実的ではないので、マニュアルの見直しの議論を始めている。
防災	防災無線が聞こえない。高齢者等インターネットで情報を調べられない人の穴をどのように埋めていくのか。	エフエム世田谷やテレビのDボタンによる情報発信の周知やエリアメールなどのしくみをつくっていく。

防災	被害が出ているところでは、詳しい情報がほしい。震災の準備はしているが、水害時の連絡体制が必要と思う。	関係機関や、ケーブルテレビと連携して災害時に避難所の開設状況や受け入れ情報などの情報を発信していく。
安全・安心	防犯パトロール隊を結成し、環境美化活動も行っている。現在は落書き問題に困っている。	落書きは世界的に増えている。まちの方と連携して落書きのないまちにしていきたい。
交通	地域内に3本の私鉄が通っている。ダイヤが過密になり踏切が開かない。踏切を渡らないと災害時避難所に行けない。鉄道の立体化を進めてほしい。	3本のうち2本は、平成16年に東京都が踏切対策基本方針の検討対象区間として指定した。東京都や関係機関にしっかりと取り組むように引き続き働きかけていく。
子ども・教育	若い人に区の行政を知ってもらう入口として児童館がよいと思う。子どもが増えているが、児童館を設置していく計画はあるのか。	児童館は現在25館あり、子育ての基盤として大切なので、整備を進めていきたい。
子ども・教育	子育て支援として空き家を活用し、かつて子育てに携わった方を担い手にするなど柔軟に取り組んではどうか。	空き家を活用した子育て広場が続々増えている。空き家を手入れした「お出かけひろば」を各地域に広げている。今後も、場づくりを進めていきたい。
子ども・教育	クチコミで子育て情報は広まるが、地域や区の情報が若い人に届いていない。若い人が見たくなるような区のホームページを作ってほしい。	ツイッターで発信しているが情報量が多いので、子育てアプリ等を使って自分の地域の情報も発信されるように工夫する。また、区全般の広報についてもわかりやすく発信する工夫を考えていく。
公共施設	図書館、児童館等でお話会ボランティアをやっている。図書館の民営化が心配である。指定管理だと担当者が継続しない。	公共図書館の役割は大きいという認識のもと、指定管理や一部業務委託等、成果を検証していく。どのような形でもボランティアの方が継続できるような環境づくりをする。
公共施設	区議会の図書室は一般開放されないのか。	区議会がさまざまな情報を収集し、区議会議員が調査研究するために利用するものとしている。
その他	生涯現役ネットワークのプロジェクトでホームページを立ち上げた。優しい切り口で、アプリを押すだけで情報が得られるしくみになっているので活用してほしい。	お話を伺い良い取り組みだと思う。拝見させていただく。

○等々力地区

項目	質問・意見等(要旨)	回答要旨
まちづくり	電子ツールを使えない人に対しては区からだけではなく住民同士の助け合いが重要と考える。区と地域住民の連携が活発になれば、より良いと思う。	地域の問題は地域で解決するために地域の中での繋がりをどう作っていくか、これから求められる。
防災	水害時の避難所は区で運営することになっていたが、今後はどうしていくつもりか。	水害時に開設する避難所の情報を整理する。運営については地域の皆さんと職員と一緒にやるように見直しを行う。6月の出水期までには決めたい。
防災	台風 19 号について、携帯電話に警報が来た。我が家は安全な場所なのに。電話をしたら区役所（玉川総合支所）が水浸しになっていると聞いた。	携帯に届くエリアメールは自治体ごとに知らせる携帯電話会社のしくみとなっているため、遠い地区でも鳴った。電子ツールがない方にも正しい情報が届くように取り組んでいる。玉川総合支所には被害はなかった。
防災	大規模火災についても問題提起したが、助成金の話をされた。	防災まちづくりとして不燃化を進めており、不燃性材質を使った建替えには助成金が出たり、細い道路はセットバックする等の制度を説明したものである。
防災	水害地域は、物件価値も下がっている。区が良い対応をしたら納税しようという気になるのではないか。被災地を回ったが区の職員が居なかった。職員が居住し災害時の迅速な対応を求める。	水没時に使用できるようなポンプ車を補正予算で準備した。また、保健師も全戸訪問し困りごとなどを聞く取り組みを行った。今後もいただいた意見を含めて体制の見直しをしていく。
防災	災害時の情報取得について、電子ツールからの情報取得が不得手な高齢者と比較的得意な若い世代が災害時に助け合うためには普段からの繋がりが大切。「ふれあいカフェ」も使えるのではないか。	誰でも参加できる認知症カフェや「いきいき講座」など、高齢者、子どもが気軽に参加できる場は増えているが、多世代交流の促進に向け一緒に相談しながらやっていきたい。
防災	地域防災計画に水害の記載が少ないことや認知度が低いことについて、どう考えているか。	地域防災計画、地区防災計画を見直す予定。計画は概要版を作成し、本編につながるような工夫はしている。周知の仕方を更に工夫していきたい。

防災	大勢の人が避難所に来て入りきれない。誰が優先して避難所に行くべきか、事前の周知が必要。また、自宅待機で物資がもらえるか周知したほうがよい。	在宅避難などについても更に周知する。在宅の際の物資の受け渡し等については、皆さんと意見交換をしながら工夫していきたい。
防災	内水氾濫した箇所に保育園が2か所ある。段差のない設計で床上浸水した。次の5か年計画に入れてほしいと区から都下水道局へ要請してほしい。	都の下水道管を大きくする工事を急がせているが、区でも道路工事に併せて水が浸透する側溝を埋めている。各家庭で下水に水が流れないように緑の植栽の啓発も進めていく。
福祉	区が開設する児童相談所について、職員のうち専門家はどれくらいいるのか。また、機能的に動けるのか。	専門家は十分に配置する。また、現在は区の職員を都の児童相談所に派遣し、4月以降は都の職員が区に派遣されることとしており、開設前後での支援の切れ目がないよう取り組んでいる。
福祉	社会福祉協議会の高齢者サークルに小学生を交えた活動を増やしてほしい。また、老人ホームのボランティア募集に力を注いでほしい。	高齢者サロンや子育てサロンが多くあり、高齢者、子育て中の方、地域の方など多世代交流の場になっている。まちづくりセンター、あんしんすこやかセンター、社会福祉協議会の三者連携で方策を考えていきたい。また、ボランティアについては、老人ホームだけではなく高齢者サロンの手伝いもあるかと思うので問い合わせしてほしい。
道路・街づくり	大井町線のまちづくりについて14の踏切が開かずの踏切になりつつある。地下化など検討しているか。	踏切事故等もあるので早急に進めるべきであるが、鉄道の立体化はコストも時間も非常にかかる。都や目黒区も含めた東京都全体で取り組むが、具体的な立体化の計画にまでは至っていない現状である。
交通	今まで有った区役所行きのバスが廃止されてしまい、区役所に行くまで1時間以上かかる。	バス会社に玉川地域と区役所を結ぶ路線について存続してほしいとの声は既に伝えている。等々力から梅ヶ丘のバスの本数が増えているので、さらに増やすよう伝えていく。

子ども・教育	子どもの教育として、SDGs、環境問題についての教育、デジタル社会化、英語教育に対する改革をどう考えているのか。	気象異変を考えるシンポジウムを企画している。環境危機についてどう発信するか検討する。高齢者へのインターネット操作支援や外国人とのコミュニケーションも大切と思われる。
公共施設	近隣には銭湯がなく、高齢者はふじみ荘を利用していたが急に廃止が決まった。風呂券の配布があるが銭湯がないので使えない。ふじみ荘の存続のため寄付金を募れば集まるのではないか。	建物の老朽化のため改修を模索してきたが難しく、廃止の方向となった。銭湯は減少傾向だが、高齢者コミュニティの活性化などの効用もあり、代替案を含め検討していく。
その他	区長へのメールのみではなく直接、各所属の担当職員にメールできるようにしてほしい。	色々な部署、多数の職員もいる中で、個々のメールアドレスを公開するのは現実的ではないが、直接対応ができる手法がないか検討する。
その他	年々、大きくなっている税収減に対して現在行っている支出抑制の対策で改善していくのか。今後どのような改善策を考えているか。	ふるさと納税の可能額の割合を下げ、額の上限を設ける。この2点を国に対して改革を求める。公共インフラを支えていくための住民税の意義を区としてアピールしていく。
その他	区政、区議会がどういうことを問題としてやっているのか関心がない。新聞もとっていない人が多く、知らない区民が多いのではないか。	区報については希望により郵送等の制度もあるが知られていない。区報を読んでもらえるような対策を議論したい。
その他	ふるさと納税について、区外の人にも世田谷区に納税してもらおう方法を考えるべき。	児童養護施設を退所した方への奨学金には半数が区外の方から、ふるさと納税があった。子どもの医療的ケアのサポートなどに広げていきたい。

○上野毛地区

項目	質問・意見等(要旨)	回答要旨
防災	水害時の避難所について、保育園や青少年施設も一時避難所として運営してほしい。避難訓練、避難所運営の講習会を頻繁に開催し、小学生も含めた若い人を巻き込んだ取り組みが必要。	水害時の避難所運営について検討を進め、民間施設や大学も含め避難所を増やす方向。町会と大学の運動部でグループを作り平常時より協力体制を取るなど多様な手法で若い方の参加に取り組んでいる。
防災	床上浸水したため避難所に行ったが大勢の人が居たため障害のある子がパニックを起こし退去した。学童で使っている学校に避難できたが個人の状況に合わせて通いなければならない場所に避難できることが必要である。	避難所となる学校の中でも体育館だけではなく多目的室や特別教室を使うなど拡大して対応できるような学校と調整していく。
防災	溢水は何が原因なのか。また、夏の出水時期へ向けた対策が取られているのか。	溢水の原因は関係省庁や専門家の検証委員会で検証し中間報告が出される。全庁で総点検を行い主に情報発信、避難所の開設・運営について検討し水防活動を強化する。無堤防地域の対策としては国に要請・要望を出しているが長期にわたるので暫定的な土嚢等の対策を行う。
防災	中・長期計画として、水の出ない、災害に強い町として何を今後検討していくか。	河川の問題は上流との情報共有が大事なため、災害対策本部に国の係官を呼び情報共有する。国の緊急経済対策予算で、多摩川に堆積した土砂の掘削工事を行う。多摩川の底を掘る河道掘削も行う。国にも要請して一緒に考えていく。水門、樋門の操作を遠隔化できるか検討する。
安全・安心	自転車事故が多いので、区独自の自転車自賠責保険の制度を作してほしい。	昨年「区民交通傷害保険」の募集を開始した。廉価な賠償保険なので加入していただきたい。4月から都条例が制定されるので区自転車条例にも安全義務等を盛り込んでいく。
安全・安心	自転車自賠責保険について、自転車を販売するところ等で加入できるのか。	昨年は5月～6月の間に銀行・郵便局・農協等での申し込みで受け付けた。区役所では直接加入できない。

道路・街づくり	上野毛通りと環状八号線との交差点が人も車も多く危険。上野毛通りの改修はいつ行うのか。	現行計画では令和5年に着手予定となっているが、計画どおり進捗していないため先送りは必至である。直ぐに着手はできないが、PTAや地元町会と情報を共有していく。
交通	世田谷区民会館行きのバスが廃止された理由を聞きたい。代替の交通手段を考えてほしい。	区内の南北交通が足りないため、バス事業者に存続を希望したが、採算的に厳しく廃止となった。交通不便地区の移動手段の確保に向け努力していく。
子ども・教育	地区内には不登校の子どもを受け入れる公的な施設はなく、民間の施設が運営されている。そのようなところが公的補助を受けられるしくみを整備し、援助をしていただきたい。	不登校は5年前より倍増し低年齢児が増えている。区内3か所の施設を開設している。学校に来られない子に学びの機会を保障するなど幅広く応援していく。再チャレンジできる機会を用意していきたい。
子ども・教育	親の過度な期待により受験競争に巻き込まれている子どもたちの教育虐待が気になっている。教育虐待を受けている子どもたちを救いたい。	変化する環境に柔軟に対応し、生き抜く力は子どもたち自身の体験により鍛えられると思われる。外遊びを推奨するプロジェクトなど、場や機会を広げる取り組みについて地域で連携してやっていただきたい。
子ども・教育	小学校のプールについて近隣からの苦情があり、授業に支障が出ている。教育委員会に音を遮るような囲い設置の陳情に行ったが要求が通らなかった。教育上重要な問題なので改善してほしい。	静かに暮らす権利と子どもたちが成長していくための体育活動が両立するように知恵を出していく、そのようなコミュニティも大切と考える。
公共施設	世田谷区民会館で行われるイベントが多い。その他の地域の区民会館での開催を望む。	新しくできる玉川区民会館のホールは、舞台がオープンになることで中庭と繋がるイベントができるしくみになる。多様なイベントに使っていただきたい。
公共施設	区民施設の抽選倍率が高く借りられない。サークル活動の場所がない。	税金が減っている中で新たな施設の建設は難しいため、今ある施設を多目的に使えるようなしくみをつくっていききたい。
その他	被災した方の家財道具などの一時的な置き場所として空き家を活用してはどうか。有償でも良いかと思う。	地域貢献につながる空き家の活用にも取り組んでいる。ご提案の活用はハードルが高いと思うが検討していく。

○用賀地区

項目	質問・意見等(要旨)	回答要旨
まちづくり	商店街とスクラムを組み、3町会として東京2020大会終了後にビジョンを掲げたい。	住民の皆さんが地区のビジョンづくり、支えあっていこうということは大変重要であり、区としてもともに取り組んでいきたい。
まちづくり	町会役員会を開催する場所が無い。現在、中学校の教室を借りたり漂流状態である。集会施設を整備し、町会に優先的に貸してほしい。	安定的に使える場所については検討し、活動が継続するようを支援していきたい。
防災	避難所運営において備蓄品が少ない。プールの水を使うよう決められているが汚れていて使用できない。現場を見てほしい。	現在、備蓄品は3日分である。プールの水は消火などに利用する。飲料水は浄水場からの供給となる。
防災	台風第19号の際に防災無線が聞こえなかった。他の周知方法を考えてほしい。	テレビのDボタンによる情報提供やFMせたがやの周知など、情報が届く方法を考えたい。
防災	台風第19号の教訓から水防訓練も実施してほしい。	今回の教訓をふまえて次期防災計画を策定する。皆様にも参加をお願いしたい。
防災	避難所を見直してほしい。収容人数以上の人が来る。地区会館や公共施設以外の施設も活用してほしい。避難所数を見直ししてほしい。	私立学校や企業との協定も含めて、大人数の受け入れを検討していく。
防災	区民防災会議で台風第19号の被害について議論してほしい。	区民防災会議も視野に入れ、水防体制をどのように変えていくのか検討したい。
防災	台風第19号時、ゴミ回収中止情報の防災無線が聞こえなかった。中止情報が行き渡らず、家庭から出されたゴミが残されていた。	ホームページは閲覧が殺到し動かなくなった。防災無線の他にエリアメール等による周知方法を検討する。
防災	台風第19号で中学校の避難所を手伝った。エレベーターが無く機材が重いため中学生に運んでもらったが大変だった。非常電源もほしい。	いただいたご意見も踏まえて、避難所の課題を整理し、区民防災会議で議論したい。
防災	台風第19号で、二子玉川に堤防が無いところから、多摩川が氾濫した。今後、人口が増えると上水道、下水が心配である。	堤防建設の合意ができたが、完成するまでの間の被害対策として、消防や国土交通省と止水装置を準備する相談を行っている。

安全・安心	電動アシスト自転車が増えており疾走する自転車が危ない。自転車免許証等、管理する方法とチェックする体制整備を要望する。	現在、自転車に係る条例を検討中である。速度規制は警視庁の所管であるが、安全な自転車利用対策を進めていく。
安全・安心	自転車対策について。電動アシスト自転車は危ない。教育する場が無い。自転車公園を整備してほしい。	電動アシスト自転車は倒れた際も危険と認識している。起こし方、乗り方等の講習会は必要と考えている。
安全・安心	防犯カメラの増設を希望する。住宅地で暗いので街路灯を明るくしてほしい。	防犯カメラは整備を進めているが、具体的な場所を聞いて検討する。暗い街路灯は場所を確認し、道路管理所管と調整する。
福祉	高齢者がデイサービスに気楽に参加できるしくみを希望する。中・長期的に駅前の空き店舗を活用してほしい。	健康づくりでは皆さんの趣味、体操、音楽などの活動が重要である。コミュニティを豊かにしていただくための方策は区としても考えていきたい。
環境・清掃・リサイクル	自宅の近くにゴミ屋敷がある。猫も増え不衛生。対応をお願いしたい。	場所を確認し現場調査する。状況に応じ対応する。
環境・清掃・リサイクル	たばこのポイ捨てのルールが広く周知されていない。パネルやちらしを住民宅の壁等に貼れば恒常的に目につく。モラルの徹底化を図りたい。	路面や電柱等へパネルを貼ったりしているが効果が薄い。担当所管にも話していく。クリーン作戦等も企画し、取り組んでいく。
環境・清掃・リサイクル	ペットの糞の後始末等マナーが悪い。区報でのマナーの周知を希望する。	マナー向上に区としても周知に取り組む。
みどり・公園	公園のトイレが古く汚い。和式トイレ、男女共用で一人用しかない。過去改修工事の要望書を提出した。公共トイレとして災害時にも使えるようにしてほしい。	公園のトイレは順次改修している。該当のトイレは今年度、洋式化の改修工事の対象となっている。
みどり・公園	小さな公園では遊ぶ子どもが少なく公共施設の無駄が出ていると感じる。	遊具や砂場が危険と考える親や、子どもが来ると近隣から苦情が出る公園もあり、遊べる公園が少ないと感じている。子どもが自然に過ごしたり遊んだりする環境を工夫していきたい。

みどり・公園	国立研究所跡地の広い敷地について、マンションではなく公園を整備してほしい。	大きな集合住宅が建つと、公共的用途や緑が減少することにもなる。地域を考えながら所有者である関東財務局と話していく。
交通	東西道路でスピードを出す車両が多いため、一時停止標識のある南北道路と同じように一時停止の見直しをお願いしたい。	警視庁との協議が必要である。地域住民と共にゾーン30を制定している地区もある。
子ども・教育	保育園に入れず幼稚園に預けたが仕事を続けることが困難。幼稚園には空きがあるので午後の預かり制度があれば良いと思う。	幼保一元化として、認定こども園があるが、新たな参入が増えていない。預かり保育は以前よりも協力する園が増えてきている。更に取り組んでいく。
公共施設	近隣に図書館が無い。児童館についても都営住宅内にあり、住民が高齢化しているため、声等配慮して活動している。公務員住宅跡地に上記施設を取り込んだ施設を建設してほしい。	公務員住宅跡地は体育施設の建設が決まっている。要望は受け止める。
その他	区職員の異動が多すぎる。地域の付き合いもあり1年で異動してしまうと物事が進まない。	ご意見は今後の人事異動の参考とする。
その他	民生委員を知らない人がいる。支援を必要とする人が気付くように区からも宣伝してほしい。なり手がいないため負担が大きい。	児童相談所を設置することで、民生委員・児童委員の役割もますます重要になる。総合支所と協力し負担の軽減に努めていきたい。
その他	ふるさと納税について、区の財政の危機感を煽るようアピールしてはどうか。	悲壮感が出ないようにパンフレットの内容をユニークなものにした。ふるさと納税では、区独自の寄付制度もあるので、皆さんからも広めてほしい。

○二子玉川地区

項目	質問・意見等(要旨)	回答要旨
防災	台風第19号では、小・中学校に1000人以上避難した。近隣の私立学校や地元企業と協定を結び、高齢者が近くに避難できるようにしてほしい。	水害避難所の事前指定や避難所を住民運営型にするなど検討し、民間の避難可能な場所も増やしていきたい。無堤防地域へは、止水装置と土のうで対応していく。
防災	これまでもたびたび起きてきた玉川3丁目の内水氾濫の根本的な原因は、下水管の能力を超えた開発と建築許可ではないのか。	谷沢川の下水处理能力を上げるための工事や地中に浸透させる工事を行っていく。同時に、水門操作を自動化する検討を都と進める。多摩川の水位が上がらないように河道の掘削や、氾濫危険時には小河内ダムの水位を下げてもらうことを国に要請し、都と国と一緒に対策をとっていく。
防災	多摩川の水位上昇の異常性について、国に対してしっかり主張してほしい。堰も関係していると思っている。	水位の上昇については、小河内ダム放流との関連性についても検証が必要だと思っている。
防災	無堤防地区の近くの広場に土のうを積んだらどうか。暫定堤防についても検討をお願いしたい。	土のうの倉庫をつくり、施錠し無堤防の箇所のみで使うようにしていきたい。暫定堤防については国とよく相談し要望していく。
防災	台風第19号による浸水の被害状況と原因について区報で知らせてほしい。地震・水害の専門組織をつくってほしい。	原因については、調査委員会を立ち上げ、2月に中間報告予定である。報告内容は区報で特集してお知らせしていきたい。
防災	私立学校や民間企業の活用など、避難所を見直してほしい。避難の実態について、調査を行ってほしい。	災害時の避難動向調査については、貴重な提案だと受け止め、関係所管と相談をしていきたい。
防災	台風第19号では避難所が満員だった。避難すべき人、避難しなくてもいい人のガイドラインを作してほしい。障害者が車で避難所に行った際の駐車場を確保してほしい。	ある地区では「在宅避難のすすめ」というパンフレットを地区内に配っている事例があるため、そういったものを共有できる形にしていきたい。要支援者の避難方法や避難場所等については、関係所管課と検討していきたい。

防災	高齢者や足が不自由な人の避難についても、システム化したほうがいい。	歩行が困難な高齢や障害のある方に対して、安全な時間帯に車両等で避難所に案内することはできないかも含め検討をしている。
福祉	身元保証人や引受人がなく、行き場を失っている人が増えている。公的な身元や債務を保証する制度をつくってほしい。遺品整理や埋葬も課題として考えてほしい。	保証人廃止など、保証人制度を見直す動きが公営住宅である。保険加入による遺品整理、埋葬を行う取り組みの準備に入る。
福祉	8050問題について取り組んで欲しい。様々な人が、地域活動やボランティアに参加しやすくなるよう機運を高める取り組みを行ってほしい。	これまでも「メルクマールせたがや」や「ぷらっとホームせたがや」で取り組んできたが、今後は地域ごとに相談窓口をつくっていききたい。また、地域活動等に参加していない人が参加できるよう機会づくりも行っていきたい。
環境・清掃・リサイクル	近隣にあるレストランの騒音とにおいについて。スピード感をもって、適切に処置して欲しい。	地域住民への配慮のお願いをしている状況である。営業時間等についても関係所管と連携し対応していきたい。
道路・街づくり	しっかりした堤防の建設と、地域資産の河川敷を両立できるような工夫をしてほしい。川の土砂を財源として、町の整備に利用できないか。	地域資産としての川へ誘導できるような水防で、まちづくりを進めていきたい。土砂を財源にすることは前例がないため、国も研究したいと言っている。そういう発想は必要だと思う。
公共施設	本庁舎整備計画は問題が多すぎる。設計業者との契約を白紙に戻すことは考えているか。	面積の増加、工事単価の上昇、職人不足による工期の長期化等の影響で工事金額が上がった。受注業者が決定した経緯等の資料はすべて区ホームページで公開している。審査会を経て、決定された業者のため、白紙に戻すことはできない。
公共施設	二子玉川地区に児童館と図書館をつくってほしい。	児童館がない地区の課題は認識している。適地が見つかれば整備に向けて検討していきたい。図書館についても同様に要望を受け止める。
公共施設	都立高校跡地を様々なニーズに対応し課題解決を図るような施設にできないか。	都に対して区民利用のために使いたいという要望は出している。どのような機能にしていくのか、議論する場をつくりたい。

公共施設	新庁舎では、他区で実施した集中受付のように、来庁者が不便な思いをしないような建物にしてほしい。	ワンストップでの手続きを検討し、皆さんが使いやすい庁舎になるように、ソフト面も含めて検討している。
その他	景観を守るために堤防の反対運動をしたため、無堤防地域になったという誤情報により、一方的に非難をしてくる区民に対して、誤解を解くような啓発をしてほしい。	ここの無堤防地域に堤防ができるということは、住民と合意していると記者会見等で発信している。今後も誤った情報は是正していく。

○深沢地区

項目	質問・意見等(要旨)	回答要旨
まちづくり	町会活動に貢献したい。メールで町会の情報が来るなど、マンション住民が活動に参加しやすいしくみをつくってほしい。	区広報誌のように、町会・自治会情報をエントランスに置くなどの取り組みも有効かと思う。メール配信は担い手づくりが必要と考える。
まちづくり	行政区と学校区が合っていない。地形の変化や道路等により町会も分断されている。活動に支障が出ているので見直しをしてほしい。	学校区、行政区、警察消防等の様々なエリアが相違しているため、区だけで見直すことはできない。見直しの際は地域の皆さんで話し合うことが不可欠である。
まちづくり	地域の中で挨拶のできる環境があれば、子育ての孤独や災害時の大変さも緩和される。行政に任せるだけでなく、民間でも挨拶のできる関係を構築したい。	避難所も今後増やしていくが、顔の見える関係で垂直避難や縁故避難等を優先して行っていただきたい。
まちづくり	回覧板では区の施策や地域の情報が把握しきれない。色々な年代に対応できるよう、紙と合わせてメール等も活用してほしい。	若い世代の方にも情報が届くよう行政からの発信方法を検討していく。
まちづくり	住民の町会加入率の低下が進んでいる。マンションは管理組合が町会との窓口になっているが、理事が1年交代で変わるので話がつながりにくい。	ご意見は町会に加入しているマンション在住者の課題として受け止めたい。
防災	防災無線で避難指示があったが、避難基準が明文化されていない。自分で判断できないのが問題と思う。水害の場合は垂直避難するなど、自分自身が認識することが大事。	行政が住民に指導や命令する時代ではない。住民が自主的に判断し、地域のルールや制度をつくることのできる地域行政制度のしくみを考えていきたい。
防災	マンホールトイレが整備されているが、トイレ用のテントが不足している。	トイレとテントを同数備蓄しており、車いす用の広いスペースも確保している。区以外の敷地については確認する。
防災	地区の避難所は国道を挟んでいる。災害時は緊急避難道路のため渡れない。地区の近くにある都立高校に避難できる場所を確保してほしい。	都立高校の災害時利用協定について検討を進めている。

防災	災害時にペットも同行避難できるよう、各立場の人の歩み寄りが進んでほしい。	ペット同行避難について改めてルールを検討していく。
防災	地域の住民が自主的に開設に携われるような連絡体制の整備が必要。	台風第19号を踏まえて、職員体制や避難所開設を見直していく。電話等から簡単に情報を取得できるようにしくみをつくる。
防災	避難所が地震と水害で異なっている。統一するか、避難所が異なることをもっと広報するのか考えてほしい。	避難所は見直す方向で検討している。水害時も自助・共助が機能するよう、地域の方の力をお借りしていきたい。
防災	災害時は情報発信できない場合がある。段階的な避難所開設では情報が届かない。普段から避難所を決めておかないと動けない。	水害の場合は一地域だけの被害もある等、震災と水害での避難方法の違いが改めて課題として認識した。整理して、避難所の情報や避難の仕方を含め周知する。
環境・清掃・リサイクル	野良猫が増えすぎないように避妊手術を行い費用がかかる。補助金を増やしてほしい。	区では地域猫、飼い猫に対して避妊手術等の助成を行っている。助成額や手続き方法について検討しているのでご理解を願いたい。
子ども・教育	防災時の小学校登校基準について暴風警報だけではなく大雨についても検討し、登校時間に間に合うよう改善してほしい。	台風第19号を踏まえ、総点検をしている。情報伝達手段が統一されていないため、登校判断を早急に決定し、一律で伝達できるように体制を整えていく。
子ども・教育	小学校教員の病欠等により教員と児童の信頼関係が失われている。身近な区の教員を採用し子供の健全育成を希望する。	都が教員の人事権を有している。区独自採用は財政面で厳しい。区に教員の人事権が移管されるよう、都に要求していく。
その他	健康づくりの目的、目標をはっきりして、区民にわかるように進めてほしい。	区と地域の健康プランがあるが、ご意見を参考に一体化した改訂版を作成する。健康寿命を延ばすようなコミュニティの場を作っていく。

○祖師谷地区

項目	質問・意見等(要旨)	回答要旨
まちづくりセンター	まちづくりセンターの役割、特に災害時の役割がわかりやすく見えるといい。	まちづくりセンターでは避難所運営や訓練の支援、高齢者の見守りや健康づくり、青少年健全育成などの地区支援を行っている。また、あんしんすこやかセンター、社会福祉協議会と連携して福祉の相談窓口を開いている。多岐に渡る地区課題にも取り組んでいく。
防災	災害時の障害者、要支援者の避難所が分かりづらい。福祉避難所というが、本来は分け隔てなくインクルーシブに進めていただきたい。	避難所の開き方、運営方法の見直しの検討を進めており、6月の出水期までに、開設する避難所を明らかにしていく。
防災	風水害と震災時では避難場所が違う。防災タウンページは風水害には対応していないことがわかった。	震災時は全ての区立小中学校を避難所として開設することになっているが、台風の際に開設する避難所について改めて整理する。必要な情報の周知についても検討していく。
防災	祖師谷地区防災計画では、首都直下地震で祖師谷は区内最悪の延焼被害となると記されている。震災時の火災に住民が初期消火でスタンドパイプを活用できるよう、祖師谷をモデル地区として取り組む決断をしてほしい。	防災塾等に様々な世代の参加者が来て、訓練ができるといい。区内でもモデルになるよう新たな取り組みを考えていきたい。 また、火災延焼時は自助が大前提である。街路消火器の活用や消防団との連携も進めてほしい。
防災	災害時に大切なのは情報の共有である。どこで火災が発生したか、住民がまちづくりセンターに駆け込めば、拠点隊から消防署へ通報できる体制を組んでほしい。	災害対策課と調整して実行に移していきたい。
防災	祖師ヶ谷大蔵駅前広場の防火水槽を拡充すると聞いているが、震災時に消防署は駅前広場に来る体制にはなっていない。その水槽をいかに住民が活用するかが大切だ。	成城消防署と、防火水槽の活用に向けてポンプの設置等について話をしていきたい。

福祉	<p>短歌の会で活動している。講師派遣の助成金はふるさと納税で税収が減少してもやめないでほしい。認知症が疑われる一人暮らしの高齢の参加者をサークルで見守った経験があり、地域に根差したサークル活動は大切な役割がある。</p>	<p>これからも地域でたくさんのつながりを作っていただきたいと考えており、社会福祉協議会を中心に取り組んでいるところである。</p>
道路・街づくり	<p>地区内は大地震の際に火災が燃え広がる危険性が高く、消火活動が困難な地域である。「電線の地中化」と「区内の道路整備」の状況について伺いたい。</p>	<p>区では道づくりプランを策定し、都市計画道路、主要生活道路、地先道路をネットワークとして構築する方針で取り組みを進めている。狭隘道路をできるだけ減らす、不燃領域率70%を目指して取り組まなくてはならないと認識している。無電柱化は非常にコストがかかる。低コストでできる技術を求めながら、プランを作って進めていく。</p>
道路・街づくり	<p>地区内は消防車が入れないほど道幅が狭い。4mの道路幅員を確保するためにセットバックの制度があるものの、実態は建築許可を受けたのち、花壇にする等、法律が生かされていない。</p>	<p>セットバックについては、平成9年に条例で、事前協議の制度を作ったが、土地の寄付、無償使用承諾、または所有者による自主整備が選択でき、実態として寄付は毎年5kmほどしかない。地区街づくり計画や地区計画に4m部分の空間確保を盛り込む事例もあるので、相談しながら取り組みたい。</p>
交通	<p>祖師谷商店街北通りのコミュニティバスの運行の安全に係る問題で、大型店舗の駐輪場の課題がある。新築や改築の200㎡以上の店舗には20㎡当たり1台分の駐輪場の付置義務あるものの、既存店には義務付けがない。駐輪が危険なので改善してほしい。</p>	<p>大型店舗がいわゆる居抜きで新規出店した場合を指摘されていると認識している。該当店舗については、所管である交通安全自転車課からも話を聞いているが、今後もしっかり取り組むよう改めて指示する。</p>
公共施設	<p>小坂邸、清水邸のお茶室等について、利用する際のハードルが高すぎる。広く利用できるように取り組んでほしい。</p>	<p>文化財の側面が強い建物で、利用により文化財に傷がつく危険もあり、利用できないようにしているが、しっかりしくみをつくって、使える施設を作る方向で考えたい。</p>

公共施設	<p>砧図書館はよい職員が一生懸命に取り組み、様々な活動が盛んな素晴らしい図書館だ。</p> <p>指定管理者制度を導入した図書館もあるが、砧図書館は引き続き区直営でやってほしい。住民参加型の運営はそぐわない。</p>	<p>図書館は、予算規模の増大傾向に鑑み、持続可能性の検証も企図し、経堂図書館で指定管理者制度、世田谷図書館で一部業務委託を導入した。ご意見は受け止め、今後もあり方を探っていきたい。</p>
公共施設	<p>砧図書館の住民運営型の議論は、区側と住民の議論がかみ合っていない。住民参加型運営のイメージを伺いたい。</p>	
公共施設	<p>砧図書館の職員の十分な質が確保されていないと感じる。職員は質を確保し、ノウハウを生かせる職員配置をお願いしたい。</p>	
公共施設	<p>図書館のような収益が見込めない設備は、指定管理者制度になじまないと思う。経堂図書館を民間委託したメリットとデメリットは何か。</p>	<p>経堂図書館について、メリットとしては夜遅くまで開いていることがあげられ、デメリットとしては職員交代が頻繁になり、地域の皆さんとの関係が作れないといったところだと思う。</p>
その他	<p>知的障害者のスポーツ団体に活動している。団体の運営は寄付だけでは厳しいので、大蔵第二運動場を使用する際の使用料の減免を制度化してほしい。</p>	<p>区は東京2020大会における「共生社会ホストタウン」として登録され、全国をリードする「先導的共生社会ホストタウン」として認定を受けた。国際交流、障害者スポーツの場を定期的に確保し、支えていきたい。</p>

○成城地区

項目	質問・意見等(要旨)	回答要旨
防災	災害時に自宅に「安否確認標識」を掲示して、救助活動を速やかにおこなうしくみを区全体に広げていただきたい。	区でも先進事例として紹介することも含め、災害対策に活かしたい。
防災	総合工科高等学校にアプローチして、災害時や防災面で一緒にやっていただきたい。	支所長と校長で近いうちに会い、災害時の協力体制の検討を進めていく。
環境・清掃・リサイクル	公共施設に太陽光発電システムを広げてほしい。住宅の断熱回収や省エネ家電等に補助金を出してほしい。食品ロス削減や生ごみの水分減量で、ごみ処理費用を削減してほしい。	本庁舎は再生可能エネルギーの電気だけでまかなうこととしている。これをさらに広げていきたい。各所管で食品ロス削減・生ごみの水切り、断熱改修に取り組んでおり、更に広げていく。
みどり・公園	区の風景資産でもある仙川の桜並木が、マンション建設工事により危機にさらされている。樹木医が枯死すると診断したのにマンション建設が進められている。	住民側と建設事業者側がそれぞれ樹木医に相談して見解が分かっていることは認識している。工事に起因して枯れてしまったときは、植え替えについて協力を求めていく。
みどり・公園	国分寺崖線の緑を守りたい。成城三丁目の崖の林市民緑地の隣の斜面が伐採・伐根されてしまった。豪雨の時に土砂崩れなど防災の点で危険である。罰則規定など考えてほしい。	国分寺崖線は世田谷の緑の生命線である。みどりの基本条例や風景づくり条例では国分寺崖線を重点地区に位置づけ、緑化率の基準を通常の1.2倍にするなどの対策を講じている。樹木の伐採については有効な手だてがないが、みどりの基本計画では、関連条例に基づく制度の活用を進めるとともに、制度の拡充を検討する。
道路・街づくり	地域にそぐわない建物は慎重に審査して欲しい。	建築基準法に合致するだけでなく、周辺へ配慮すべきこと、例えば環境空地や緑地の整備、道路の拡幅など、条例で上乗せして建築事業者へ協力を求めていく。
道路・街づくり	自宅の駐車場設置のための縁石切り下げ工事、かなり費用がかかった。ホームセンター等で売っているカーステップなら、費用も安く済む。カーステップの設置を合法化できないか。	カーステップの道路上への設置は、歩行者や自転車、車椅子等の通行の妨げになることから、区としては認められない。

道路・街づくり	ガードレールを撤去したが、かなり費用がかかった。数時間の作業で何十万円もかかるのはおかしい。区と業者が癒着しているのではないか。	依頼者と業者間の契約で価格が決められているため、区では関与していない。
道路・街づくり	成城学園前駅の周辺開発は「成城地区地区街づくり計画」において方針が示されているにも関わらず、商店街の連続性を断つマンションが建設されている。	マンション建設について、例えば屋上緑化に協力いただくなど、要望できるものは街づくり課と一緒に要望していく。
道路・街づくり	成城学園前駅北側の道路整備について、歩行帯を両サイドに広くとり、車両と共存できる道路整備をしてほしい。	子ども・高齢者が増えているので、これからの街のつくり方を一緒に議論する場をつくることも検討していく。中長期的に考えていく必要がある。
道路・街づくり	10年以上前に駅周辺まちづくり協議会を開催してきて、出た最終回答があるが、頓挫してしまっている。	思う通りにいっていないということは認識している。再度しっかりと進めるように検討をさせたい。
公共施設	図書館をなぜ民営化するのか。資産も売却するというのか。	経堂図書館や世田谷図書館で一部業務委託と指定管理方式を取り入れて検証している。梅丘図書館では建て替えに伴い、民間事業者を入れる。NPO法人を作り住民が管理・運営する形や、区民センターのように運営協議会が運営、サービス公社が管理といった形もある。住民のニーズが反映される図書館になってほしいと考えている。
公共施設	図書館運営協議会は、設置されているのか。	設置されていない。
その他	多文化共生ボランティア等の活動に興味があるが、アクセスが悪いと参加しづらいので、地区レベルでの開催を望む。 成城8・9丁目だと、どこが地域交流の拠点となるか。	成城8・9丁目付近には上智大学の国際交流会館がある。大学は自治体や地域との関わりに関心がある。この近くには、成城大学もあり、そういう資源を使い、学生も交えて取り組んでもらいたい。活動場所は総合支所に相談してほしい。
その他	車座集会の参加者が少なすぎる。参加していない人の声もきちんと聞くべき。	車座集会は直接お話を伺う貴重な機会だと思っている。住民自治について皆さんの考えを聞き、地域行政条例を検討していく。

その他	学生対象の車座集會も企画していただき、地域行政や政治に関心を持ってもらいたい。	若い人への周知方法や運営の仕方なども改善し、多くの方に来てもらうようにしていきたい。
その他	区内に火葬場を作ってほしい。	世田谷区は、臨海斎場を共同運営している。議会でも時折提言されるので、課題として受け止める。
その他	特別養護老人ホームのエリザベト成城はホールを地域に開放している。ホールを借りる公的なルートがあれば、地域住民の役に立つと考えている。	地区単位で意見交換をすると、新たな活動の場の情報があり、共有することができる。民間施設の利用についても考えていきたい。

○船橋地区

項目	質問・意見等(要旨)	回答要旨
しくみづくり	地域行政制度を区民と議論するのであれば、せたがや自治政策研究所を活用したらどうか。住民参加のまちづくりについて、区長がどういう理念、ビジョンをもっているのか。	世田谷自治政策研究所を活用しながら、自治権を拡充すること、住民参加を含めた地域行政制度を条例化していく。これから検討委員会を設置し、専門家を交えた議論を始める。
しくみづくり	地域行政を推進するうえで、私たちは「区民参加」としてどこに参加できるのか。車座集会のような場がもっとあるといいと思う。	このような会が行われることが大事。そこから出てきた要望や声を受け止め、区議会で議論するしくみをつくっていく。シンポジウム等やワークショップも開催するので、ぜひご参加いただきたい。
まちづくりセンター	まちづくりセンターにはチラシ類がたくさんあるが、子育て中の親にはどれが必要な情報なのか分からない。地域包括ケアの中で、顔の見える関係を築けるよう丁寧な対応を期待する。	ちらし類は整理して分かりやすく表示する。また、子育て応援アプリの機能を強化して地域の情報を発信していきたい。
まちづくりセンター	社会福祉協議会のボランティア保険の手続きや転入届等をまちづくりセンターの窓口で出来るようにしてほしい。	今後、条例の検討を進める中で、総合支所とまちづくりセンターの役割を整理していきたい。
防災	区の防災計画では私立学校、都立高校との連携はどうなっているのか。	大東学園は予備避難所に位置づけている。区立小学校・中学校の避難所が被災者を収容しきれないときに開設する計画である。
防災	千歳丘高校を指定避難所にしてほしい。	来年度に体育館内に備蓄物品等のスペースを設け、再来年度に指定避難所として開設できるよう都と協議している。
防災	小・中学校でも障害者対応の防災訓練をして欲しい。	避難所運営委員と協力し、災害対策課、区全体で検討していく。
防災	地域の中の街路消火器が赤色で、見づらい人もいる。汚れていたり壊れているものもある。	区が管理している消火器は定期的に保守点検し、必要に応じて補修・補填している。

福祉	地域包括ケアで三者が一体となったが、現状、子育て相談が受けられていない。あんしんすこやかセンターに子育ての専門家がないため、子ども家庭支援センターにつなぐだけという体制が問題ではないか。	あんしんすこやかセンターは高齢・介護を専門としてきた。児童福祉や障害福祉については経験が足りない。これから地域包括ケアの中で子育てに関する相談、支援策、ひとり親家庭への支援へ広げて行きたい。
福祉	世田谷区の手話通訳登録者に男性がいない。病院に行った時、男性でないとわからないこともあり、困っている。男性が優先的に講習を受けられるようにしてほしい。	今年度の手話講習会の受講者212名のうち、男性の受講者は21名。一人でも多く手話通訳者として登録いただけるよう、NPO法人世田谷区聴覚障害者協会とも連携して取り組んでいる。区ホームページなどで男性の方も気軽に受講していただけるよう工夫していく。
福祉	地域の人たちで声かけをする「声かけパトロール」の設置を要望する。何か困ったときに話しができる体制が大切。	認知症の方にもそうでない人にも優しい地域になるよう取り組んでいく。
みどり・公園	グリーンインフラについて、実行されていないように思う。駐車場緑化助成制度を拡充してほしい。対象をマンション、個人の駐車場にも広げて欲しい。	グリーンインフラは雨水をなるべく下水に流さずに、蓄える時間を作るという考え方。公共施設へのグリーンインフラについて議論し、採用し始めている。駐車場緑化についても議論を進めていく。
子ども・教育	希望丘小学校体育館の耐震補強工事や校舎の増築工事が追いつかない。夏休み後も校庭に資材が残っている。隣の船橋本村公園を校庭として開放するか、資材置き場にして欲しい。	公園の活用については、公園利用を制約することや、近隣への騒音等の悪影響が予想されるため、学校内に資材を置くこととした。また、公園を校庭として利用することは、児童の活動に十分な広さを確保できないため、今のところ実施していない。良好な教育環境の維持に向けて公園の活用方法など検討していく。
子ども・教育	小学校の児童が増えており、中学校で生徒を受け入れられるか心配。朝日プリンテックの跡地を活用できないか。	教育環境が悪くならないように取り組んでいく。朝日プリンテックの跡地について、朝日新聞社には、近隣の環境を大きく変えないよう求めている。商業施設・住宅で検討しているとのことだが、地元にとって大きな課題のため、区としても要求していく。

子ども・教育	待機児童が減ってきている。五カ年計画で「みなし園庭」のある園を50園増やすようだが、今後子どもが減ってきたときに建てた園はどう活用されるのか。	下北沢、三軒茶屋周辺は待機児童が多い。保育料が無償化されるとニーズが増えるため、50園増やすことにした。今後の保育園需要を見据え、10年に限った「分園」を作ることで調整をしていきたい。
子ども・教育	中学校は先生方が土日に部活動に出ているため、負担が心配。対価や外部指導員の充実を望む。世田谷区立中学校 PTA 連合協議会としても要望している。	授業の準備時間や子どもに丁寧に接する気持ちのゆとりもなくなってしまふことが心配。教員や学校支援の機能をもつ「教育センター」を2年後に立ち上げる予定。部活動への関わり方を見直す等、教員の負担軽減に取り組んでいく。
公共施設	旧希望丘区民集会所が図書室になった。子どもぶんか村で読み聞かせをやりたいが、図書室では事業をやらせてくれない。	これまでの区民集会所と違い、図書室となったことで、一般の来場者がおり、一定の制限もある。具体的な内容を伺ったうえで、検討する。
その他	走る人の学ぶ場所と環境づくりを充実させて欲しい。ランニングステーションを設置し、マップを作って欲しい。身近な銭湯や有料老人ホーム等の施設も活用すると地域の集いの場所にもなる。	ランニングステーションについては、スポーツ施設を活用し、できることから検討する。
その他	高齢者のほとんどがマイナンバーカードの申請をしていない。デジタル化が進む中で、高齢者が生活していけるための工夫はないのか。	マイナンバーカードを身近な所で申請できるよう努力している。毎週日曜に各地域を一箇所ずつ回り、「臨時窓口」を開設している。このような機会をもっと広げていく。

○喜多見地区

項目	質問・意見等(要旨)	回答要旨
まちづくりセンター	出張所からまちづくりセンターに となり、砧総合支所まで行かなく てはならない手続きがある。地区 の拠点として、転入・転出の手続 きはできるようにして欲しい。	地域行政を条例化するにあたり、本 庁・総合支所・まちづくりセンター それぞれの役割など、議論してい きたい。
防災	台風第19号時に防災無線が聞き 取りにくかった。	現在、改善に向けて、技術者も入れ て防災無線の内容をすぐに確認で きるように研究している。
防災	台風第19号時に避難場所の指定 がないため、住民は右往左往して おり、避難場所が満員で入れない 人がいた。喜多見小・中学校が避 難所にならず、多摩川から近い駒 沢大学が避難所になっていた。避 難所に駐車場がなく、高齢者や障 害のある方は避難できない。垂直 避難も日ごろからの交流がなけれ ば難しい。毛布・水・トイレ等、 足りない状況で不便すぎる。	今回、約5,300人の方が避難し たが、この規模の避難者を受け入 れるのは初めてだった。現在の避難所 の体制に課題があると認識してい る。水害時の避難所は地震の際と同 様に住民の方のお力も借りないと 運営できないと考えている。今後、 避難所の開設基準も含めルールの 改定を検討している。
防災	平成17年の水害を受け、野川・ 仙川とも河床を深くしていただ いたため、台風第19号では氾濫し なかった。しかし、水道橋のポン プ小屋のバルブが閉栓されてい なかったため、そこから水柱があ がった。消防団員等と協力して閉 栓した。	河川の整備は、多摩川は国、野川は 都である。多摩川については、様 々な整備を急ぎ対応するよう働き かけている。野川は川底の掘削とい う大規模な工事であるが、土木部を 中心に東京都と連携している。危 険な中、ポンプ小屋のバルブの閉 栓をしていただき、改めて感謝す る。
防災	車いすの方の避難が困難。福祉 避難所は避難所の許可がないと 避難できない。	要支援者もスムーズに避難でき るように検討する。
防災	野川は土砂を取り除く工事が行 われていないため、高水敷まで砂 利が上がった。内部に木が残って いるところは、反対側の護岸が かなり崩れた。区はどのくらい になったら浚渫(しゅんせつ)を行 うのか。	工事の実行者は河川管理者だと思 われる。確認し、区から要望して いく。

防災	成城地区のような災害時に安否確認ができるグッズを区で作ってもらえないか。	災害対策予算をこれから体系的に組んでいこうという時期である。他の地区で工夫されている良い取り組みを一覧にして共有していきたいと考えている。
安全・安心	空き巣や駐車している車へのいたずらが増加している。防犯カメラを設置してもらいたい。	防犯カメラ設置には助成制度がある。町会単位で申請していただく。危機管理室地域生活安全課にご相談いただきたい。
安全・安心	知人が自転車事故に遭い、目撃者がいなかった。監視カメラを設置してほしい。自転車に対して「ながら運転禁止」条例はできないのか。	「ながら運転禁止」条例は、区議会で議論していきたい。現在、自転車条例改正を検討しており、子どものヘルメット着用の努力義務、所有者の車両整備義務について考えている。ながらスマホは課題として警察に伝え、区としてもPRもしていく。
福祉	介護タクシーをやっている。仲間と提携して車いすの方や高齢者の方の災害時の助けになりたいと思っているが、どこに話をすれば良いか。	障害者地域生活課で移送サービスをしている団体のネットワークづくりをしている。担当課よりご案内できるように伝える。
道路・街づくり	雁追橋の幅員が狭く、車が通ると車いすやベビーカーは危険。災害時には混雑し、渡れないことも考えられるため、幅員を広げ、歩道を設置して欲しい。	橋梁はどこも老朽化が進んでいるため、計画的に整備をする必要がある。雁追橋については確認させていただきたい。
道路・街づくり	外環の上部利用に伴い、茶屋道橋と大正橋は6メートル拡張が予定されているが、雁追橋は対象外になっている。	車椅子やベビーカーがすれ違えない現状や強い要望があったこと所管課に伝える。
道路・街づくり	電柱の地中化はできないのか。車椅子やベビーカーは歩道をはみ出さないと通行できない。	区に電柱の地中化の計画はあるが、莫大な費用がかかり、短期間での対応は難しい。都では安価な工事方法を検討しており、手法を改善することが重要だと考えている。
道路・街づくり	どこも狭あい道路で緊急車両が入れない。道路計画が遅れているのではないか。	道路状況については把握している。「せたがや道づくりプラン」を策定し、計画的に取り組んでいるが時間は相当かかる。

交通	調布一渋谷間のバスの本数が少なくなり、困っている。世田谷通りを走る回送バスを活用してもらするなど、運行を再開してもらえよう、バス会社に働きかけをしてもらえないか。	バス会社に働きかけはしているが、厳しい状況である。地域内の移動手段を作らなくてはいけない。今後はバス会社だけではなく、タクシー会社も含めて、公費投入も必要と考え、議会に諮っていく予定である。
子ども・教育	桜丘中学校の校則がないと聞き、大変だとも思うが素晴らしいなと感じた。そのことに関して、区長はどう考えているか。	校則だけではなく、英語教育なども独創的に行っている。それぞれの現場で積み上げたものを尊重したい。ここだけが特別にならないよう、教育改革の中で取り組んでいきたい。
子ども・教育	教育熱心なご家庭も多く、外遊びへの理解が進まない。今まで以上に外遊び活動へのサポートをお願いしたい。	区は外遊びを推奨しており、砧地域にもプレーパークをという提言も受けている。具体的に検討し、応援していきたい。
子ども・教育	出産後に転入してきた方は産後のサービスが全く受けられない状況になっている。サービスの範囲を拡大してもらえないか。	現在、範囲を拡大する方向で検討をしている。意見をいただいたことは所管課に報告する。
子ども・教育	あんしんすこやかセンターでも一層子育て・家庭支援に力をいれていただけるような枠組みづくりをして欲しい。	福祉の相談窓口により、各機関の情報が共有されるようになった。これから児童相談所を設置する。また、身近な窓口として、子ども家庭支援センターの体制を強化していく。
子ども・教育	喜多見8・9丁目に本屋がなく、本と子どもがふれあう場が少なくなった。喜多見地区会館に図書室を作れないか。	区で本屋を作ることは難しい。本と子どもがふれあう場が少ないことは受け止めさせていただく。
子ども・教育	明正小学校・砧中学校の中に特別支援学級があるが、普通学級の子との交流がなかなかできない。高校になると障害児は遠方の学校に通わなくてはならない。どうにかできないのか。	区は「先導的共生社会ホストタウン」になった。スポーツだけではなく、教育の場でも「どの子も一緒に学ぶ」ことを実現していきたい。

子ども・教育	区立のオルタナティブスクールを作る予定と認識しているが、実際にはどのように進んでいるか。具体的な教育改革について教えていただきたい。	桜丘中学校長・尾木直樹氏・麻布学園理事長のトークイベントに700人集まった。アンケートには、個性を伸ばす教育を求める意見が大変多かった。「ひとりひとりにあった教育」、「チームで学びあう」、「学科を跨いでつくり上げる学び」を取り入れることが、これから大切だと感じた。
子ども・教育	ほっとスクール希望丘では、ゲームをしている子が多く、ゲームのできない年齢の子はやることがない。本当は砧小学校に行ければいいが、その点についてどう考えているのか。	不登校児童・生徒が5年前の倍の約800人に増えている。これからの教育はそういう子の学びの機会を大切にしなければならない。特色ある学校（特例校）にも取り組んでいきたい。
子ども・教育	働き方改革の中で、教員の負担を減らすことを考えてもらいたい。昨年度当初に教員の不足が発生した。特例校もいいが、全体のレベルアップを図ってもらいたい。	教員は非常に忙しく、教員志望者が減り、倍率も2倍以下となっている。全体の改革が必要であるが、区としても見直しや改善を図っていく。

〇砧地区

項目	質問・意見等(要旨)	回答要旨
しくみづくり	三層構造について、世田谷区独自の制度として進んだしくみだと思った。地域包括ケアも区民が理想とした形だと思う。気軽に相談できる窓口は安心する。良いものをつくっていただきありがたい。	地域行政制度は、昭和50年の区長公選をきっかけに当時の職員が周辺の人口100万人を超える大規模自治体に「追いつけ追い越せ」とアイデアを出し合った制度である。総合支所を設置し、出張所のあり方を整理して今の姿になった。
まちづくりセンター	まちづくりセンターが28か所もあると、質問への回答、区民への対応などに温度差が生じたりはしないか。	各地区が全く一律とはいかないが、福祉の相談窓口など行政としての機能の足並みを揃えて実施している。
まちづくり	まちづくりセンターと町会・自治会は一体だと思っている。例えば先日の台風のような災害時においても区との縦横の連携が必要だが、町会・自治会の役割についてどう考えているか。	町会・自治会を中心としたまちづくりは大切である。先日の台風では避難所開設などで職員の手が足りないところがあった。今回の反省も踏まえ、町会・自治会の役割も含めて水害時の体制を検討する。
防災	大学の公開講座に出たときに、盛土をしている場所については地震の際に震度を1プラスして考えろと言われた。世田谷区にも盛り土があると思うが公にはなっていないので、対策をどのように考えているのか。	盛土については災害時の危険性が高いということから、区内で盛り土の上で宅地化されている場所について、防災街づくり課が調査し、情報を整理しているところである。
防災	砧地区は火災時に備え、D型ポンプやスタンドパイプを使った訓練を定期的実施している。今は機材も技術も進化したが、やり方が分からないと困るので、町会で教えてくれている。地元の福祉施設を始め色々な人が関心を持っている。	D型ポンプやスタンドパイプは初期消火に非常に有効で、日ごろの訓練が迅速な消火につながったという事例も聞いている。防火水槽が不足している地域の解消に向けた取り組みも続けている。
安全・安心	区内では自転車事故が多いが、区での取り組みはどうなっているか。	子どものヘルメット着用やスマートフォンのながら運転の禁止などを盛り込んだ条例を制定し、PRに力を入れたい。

環境・清掃・リサイクル	東京2020大会にあたり、アメリカチームが大蔵運動公園周辺をキャンプ地とするが、ごみ対策はどうなっているのか。	大会期間中は大蔵運動公園の利用制限がかかることになっている。ごみの取り扱いについては清掃・リサイクル部と協議し、ルールは守ってもらうよう徹底したいと考えている。
交通	バスの問題について、警察との問題もいろいろあると思うが知恵を絞って頑張りたい。	コミュニティバスについては公費負担や、バス停の設置場所に関する警視庁との調整など課題は多いが、何とか実証実験に進めたい。
交通	世田谷区は小学校が多いので通学路はあちこちにある。バスを走らせるには大きな壁になると思う。子どもの安全のために方策を講じなければならない。	
交通	砧地区には銭湯がなく近隣には祖師谷地区にしかない。世田谷区からもらっている入浴券を使うには祖師谷まで移動するしかない。銭湯は午後2時から始まるので、この時間にバスが運休なのは困る。なんとか工夫はできないか。	実証実験をやってみて課題を見つけたい。地域の中を走るバスである以上、バス停の設置場所ひとつをとっても様々な課題があると思う。地域でも運行維持のためにご協力いただきたい。
子ども・教育	区立小中学校の学校図書館司書の外部委託についての評価は予定しているか。手厚い学習支援をしていくために、区の正規職員の学校司書を育成しようという考えはあるか。	学校図書館は来年度全校での司書配置が完了する。事後評価は大事な観点だと思うので、教育委員会に伝える。
公共施設	砧図書館は民間委託により公共図書館としての役割を失うのではないかと危惧している。区の提案する住民参加型の運営の具体像が見えてこない。利用者がNPOを立ち上げて関わったらどうかとの話もあったが必要性がわからない。意見交換について、区長にはどのような報告がなされ、どのような検討をしているのか。	民間委託については推進論、慎重論と両方の意見がある。NPOについては子育て世代がNPO団体を作っておでかけ広場を運営しているケースもある。住民参加型の運営は区民センターのように運営協議会という形での運営方法もある。直営方式を望む声も聞いており、議論を深めていく必要がある。
その他	世田谷区外にふるさと納税をしている人の補助金をカットできないか。	憲法上許されない。ふるさと納税による、区外への税金の流出が重なっていくと地域の運営にとっては大きな損失になるため、情報発信している。

その他	ふるさと納税は自分が生まれ育ったふるさとに納税するイメージだった。	元々はそういう地方を応援する主旨。最近はその歪める返礼品目当ての競争になってきた。
その他	世田谷区はお金があると思っていたが、税収減と聞いて、工夫が足りていないと思っている。Tシャツはどのような目的で作成したのか、正直に申し上げて着る人はいないと思う。	Tシャツは一定額以上をふるさと納税として寄付していただいた方に差し上げており、キャンペーンへのご理解をいただくものとして考えている。
その他	ふるさと納税における窮状は、区民に凶解の資料を見せ、直接訴えれば響くと思う。	誰もがみられる情報誌などで工夫しながら発信したい。
その他	近所の賃貸マンションに携帯電話の基地局ができた。区で条例を作って基地局を設置する前に住民に説明会を開くようにしてほしい。	電磁波と体調不良の因果関係を証明するのは難しい。これからは5Gが主流になり、基地局もよりきめ細かくなり、さらに増えると思われる。これからどのように取り組んでいくか検討していきたい。
その他	携帯電話の基地局については以前に要望書を出したが、アンテナが街中にたくさん建っている。通信会社同士で基地局の仕様を統一できないか。	

○上北沢地区

項目	質問・意見等(要旨)	回答要旨
まちづくりセンター	上北沢のまちづくりについて区の見解を聞きたい。	長く住まわれている方と比較的新しい住民の方、特に子育て世代の方がいい形でつながりあっていると感じる。その地域のつながり、コミュニティを引き続き支援していきたい。
まちづくりセンター	シングルマザーの方などに、まちづくりセンターが知られていない。転入・転出の手続きをまちづくりセンターで取り扱い、地区情報の把握に繋げていけないか。	メール等を活用した情報伝達手段の充実を図りたい。転入・転出の手続き等については今後の検討課題とさせていただきたい。
まちづくりセンター	児童館とまちづくりセンターがもっと連携したほうがいいのではないか。	児童館もコミュニティ機能を持つようになってきているため、まちづくりセンターをはじめ、町会・自治会、その他の団体と有機的に連携していければと考えている。
福祉	児童養護施設を退所後(18歳)の受入れ施設がない。フェアスタート事業の今後の展開について聞きたい。	児童養護施設の退所者への奨学金については、寄付が1億円を超えた。さらにフェアスタート事業のバージョンアップ、見直しを検討していく。また、ユースワーカーや、施設や里親の元を出た若者の支援について、制度設計をしていきたい。
福祉	高齢者や精神に疾患をお持ちの方などを対象とした福祉的な公的住居の拡大を望む。	区では居住支援協議会をつくって支援している。セーフティネット住宅事業を使いやすい制度に見直したい。また、都営住宅建替え時に、福祉的な住宅の確保を東京都に交渉していきたい。
福祉	リバースモーゲージ制度で高齢者対象の制度がなくなったと聞いた。復活してほしい。	東京都社会福祉協議会が「不動産担保型生活資金」制度を実施しているが、対象が低所得世帯であることなど、一般の制度に比べると要件は厳しいかもしれない。後日、社会福祉協議会のパンフレットをお渡しし、同制度について廃止の予定はないことをお伝えした。
福祉	介護サービス従事者の給料を上げてほしい。若手の職員の離職率が高い。	国や東京都とともに取り組んでいきたい。

道路・街づくり	連立事業により整備される上北沢駅南側の側道について、駅周辺は幅員6mの計画だが、途中から西に向かって幅員4mの計画となっている。幅員6mの道路を整備してほしい。	幅員6mで整備される範囲は決まっている。ご要望の道路は幅員4mの付替道路として整備されるが、用地取得の状況により幅員が4m以上になる場合、緑化や歩行者のための空間を盛り込むなど、整備にあたっては、なるべく安全な側道となるよう担当所管に伝える。
道路・街づくり	連立事業について駅舎デザインは示されたが、街づくり協議会に対して、改札やエレベーターの位置、広場の場所、高架下利用などの情報が少ないと感じる。	十分な情報提供を行うよう京王電鉄に対して申し入れるとともに、地域コミュニティにおいて必要な広場機能など、区としても街づくりに取り組む。
道路・街づくり	世代が変わることで、大きな土地が5～6件に分割されて開発されている。公道でない道路に接道している開発行為に対し、簡単に許可をしているのではないか。	大きな土地の中に新たに道路を整備する場合は開発行為となり、必要な条件を満たしていれば許可される。行政の担当者は図面や資料、現場状況を確認しながら対応しているが、ご意見があったことは担当所管に伝える。
交通	八幡山駅付近は過去に高架化されており、連立事業における駅舎デザイン募集も対象ではなかった。八幡山駅ではホーム上の雨・風対策について課題がある。連立事業についての情報が入ってこない。	八幡山駅のホーム上の雨・風対策の課題を認識した。連立事業に関する情報提供など、京王電鉄にも力を入れるよう申し入れる。
子ども・教育	休職する先生が増えているように感じる。公立小学校の見守りボランティアを全学年に増やすなどの支援を望む。	教育委員会では地域支援本部の取り組みを進めている。八幡山小学校にも地域コーディネーターを導入していく予定である。
子ども・教育	先生の職務が大変なため、児童・生徒の対応に専念できるよう、定年後のサラリーマンの活用を検討してはどうか。児童相談所などでの活用もどうか。	印刷物の配布や実習の手伝いなどの授業の補助を行う学校業務嘱託員の募集をしたが、定数に達しなかったと聞いている。この点も踏まえて現在、新たな制度を作ろうとしている。制度ができればPRしていきたい。
子ども・教育	八幡山小おやじの会には、まちをよくしていこうという方が多い。子どもが卒業した後も、地域で活躍できる場があればいい。オール世田谷おやじの会の支援を期待する。	コミュニティカフェや地域食堂などでもご活躍いただきたい。これからもいろいろな方が来られる場の創出と支援をしていきたいと思う。

公共施設	団地の建て替えにあわせ、都営八幡山アパートの敷地内に音楽専門の施設を希望する。	区内に音楽愛好家の方も多い。演奏者と聞き手が出会えるような場の必要性は感じている。
その他	ふるさと納税の冊子など、区に納税してもらえるよう、もっといろいろな手段で発信していったらどうか。	多くの区民に知っていただけるよう工夫し、周知に力を入れていきたい。本来の制度趣旨からの逸脱した過度の返礼品等の是正を国に引き続き申し入れていきたい。また、用途が明確な寄付制度のPRにも努める。
その他	八幡山駅は、駅は杉並区で周辺は世田谷区と入り組んでいる。路上喫煙禁止等、杉並区と連携し取り組んでいくよう願う。	上北沢まちづくりセンターでは杉並区の担当課と連絡を取り合うなど連携をすすめており、町会や区民の方々とも協力して路上喫煙禁止等に取り組んでいきたい。
その他	当日配布資料の地域団体の図に「消防団」はあるが、消防署と警察が入っていない。	消防署、警察署とは引き続き連携をとっていく。

○上祖師谷地区

項目	質問・意見等(要旨)	回答要旨
まちづくりセンター	まちづくりセンターに応接セットと飲食のできるスペースを設け、町会などが集まれる場をつくってほしい。	活動フロアーの利用者や、地域住民の皆さんと協議していきたい。
まちづくりセンター	成城から粕谷に引っ越してきたが、地域の情報が全く分からない。成城では町会に加入していたが、自治会がどこにあるかも分からない。	町会の情報等は、まちづくりセンターでご案内ができる。まちづくりセンターが遠い場合は、電話でお問い合わせいただきたい。
総合支所	総合支所には土木の部署がなくなり、仙川の防災対策など、地域に精通した職員がいなくなったように感じる。	土木部署は、業務の効率化と全区的な業務として本庁に一元化しているが、総合支所のあり方を考える上での課題の1つである。
防災	災害時に、情報が届きづらい在宅避難者にもり災証明の交付窓口などの情報がいきわたるよう、区ホームページに特設サイトを開設してほしい。	台風第19号の経験から、区のネット環境の改善に取り組むとともに、情報が届きづらい方への情報提供の方法について、現在検討中である。
防災	災害時に、近隣自治体の未利用施設や旅館などを一時避難所に提供してもらえないか。	区から100~200km圏内の5自治体と災害時応援協定を結んでいる。普段からお互いの自治体にイベント等に参加するなどし、連携を深めている。
環境・清掃・リサイクル	グリーンインフラについて、本庁または烏山支所の取り組みがあればお聞きしたい。	国分寺崖線沿いなどで、雨水貯留浸透施設の設置に取り組んできたが、これを一層進めるとともに、緑の雨水を蓄える力を今後の豪雨対策の大きな柱にしようと考え取り組んでいる。祖師谷公園、芦花公園という二つの都立公園を活用した貯水池等の豪雨対策も進めていきたい。
道路・街づくり	上祖師谷の成女学園跡地の利用はどうなるか決まったのか。	民間の土地であることから、現在は区に情報がない状況であるが、大規模な土地取引があった場合は区への届出義務があるため、それらの機会を捉えて街づくりの誘導に努める。
道路・街づくり	民有地を生かして、区の施設などの整備を進められないか。	遊休地などの活用は、財政状況など難しい面はあるが、学校教育の場として使えるのかも含め、調べていきたい。

道路・街づくり	榎交差点付近の補助54号線の整備の進捗状況について教えてほしい。また、補助55号線が出来た後、現在の道路はどうなるのか。	榎の交差点から駒大グラウンドまでの区間については工事が進んでいるが、あと2～3年はかかると東京都から聞いている。また、その先の区間は、仙川の橋の工事等があり、整備に時間がかかるとのことである。現在のバス路線については、補助54号線に移す方向で東京都がバス事業者と協議を行っている。
道路・街づくり	第一生命のグラウンドは広域避難場所にもなっているが、開発の話はいつ頃区にあったのか。	一昨年頃から第一生命と協議してきており、できる限り緑を残してほしいということや、スポーツ施設の活用等について話をしている。令和4年度末の完了を目指して工事を進めるという話を聞いており、施設の活用はそれ以降になると思われる。
交通	上祖師谷7丁目など都立祖師谷公園に近い辺りは駅から遠く、買い物不便地域である。コミュニティバスの運行をすすめてほしい。	コミュニティバスの運行ほか、移動販売や買い物ツアーなど、地域の中で活動ができるような移動手段の整備などいろいろな方策を探っていきたい。
子ども・教育	児童虐待やいじめ問題など、いじめる側、いじめられる側双方の家庭に問題があるように思うので、家庭内からの対応を望む。	4月から区に児童相談所が開設される。児童虐待やいじめ問題の解決には、行政だけでなく地域の中で声をかけていただく方の存在など、地域全体で取り組むこと重要であるので、ご協力をお願いしたい。
子ども・教育	地域で読み聞かせの会をやっている。近年は外国人の参加が多いため、支援してほしい。	外国人は年々増加しており、現在約2万3千人の外国人が住んでいる。区では地域と外国人居住者との多文化共生の場として「せたがや国際交流ラウンジ」を実施した。防災情報の多言語化など引き続き外国人居住者への支援に取り組む。
子ども・教育	区立図書館の運営委託がすすんでいるが、委託だと短期間で職員が変わることがある。同じ職員が従事することで、子どもへの対応の一貫性や、地域特性をつかんだサービス提供が担保できると思う。図書館は区の直営であるべきと考える。	委託によって学校司書の配置が進んだという面がある。また、貸出や返却に特化した図書館カウンターについては、民間委託でも良いと考える。民営化の推進の是非については双方の意見に耳を傾けていきたい。

子ども・教育	図書館は民間委託すべきではない。レファレンスなど、図書に習熟し知識を持った職員（司書）があたるべきと考える。	選書・レファレンス業務や、地域への情報提供に関する事などは、基本公共で行ったほうが良いと考える。
公共施設	区の施設を利用してジャズダンスサークルを行っているが体育室がなかなか取れない。体育室を増やしてほしい。	烏山地域には体育施設が不足していることは認識している。今後、第一生命グラウンドの運動施設の地域開放など予定しているが、小中学校など既存施設の未利用時間帯に一般利用ができないか検討していきたい。
その他	本庁舎の解体・建設が、多くの区民が知らないうちに始まっているように感じる。	建替えの必要性については、これまで区民と数十回の議論を重ね、検討してきた。情報をオープンにし進めてきたつもりである。住民自治や防災の拠点となる庁舎を整備していきたい。
その他	昨年の区長選で保坂区長に投票した方に理由を聞くと、自民党が嫌いだからなど、政策で投票していない。区の政策が見えてこない。	投票率などをみると区政への関心が高いとは言えない。区民に身近に感じてもらい、住民自治への関心をもってもらえるような行政運営に努めたい。
その他	ふるさと納税について、数十億円が流出している現状だが、もう少し返礼品を充実できないか。また区外からの収入はどのくらいあるのか。	区へのふるさと納税は1億円弱。法改正により、ふるさと納税の返礼品はその地方産品に限られている。区は用途を明確にした寄附を募集しており、なかでも児童養護施設の退所者等奨学金への寄附は通算で約1億500万円集まった。今後も取り組みの拡充に努めるのでご協力いただきたい。
その他	東京2020大会では馬事公苑で馬術競技が行われるほか、選手村の誘致を行うと聞いているが、そのほかにも関連の事業などあるのか。	7月10日に駒沢オリンピック公園から馬事公苑まで聖火ランナーが走るほか、「おもてなし・交流・参加実行委員会」が立ち上がり、様々なイベントを企画中である。その他、大会終了後もアメリカとのホストタウン交流を継続していきたい。

○烏山地区

項目	質問・意見等(要旨)	回答要旨
総合支所	5つの総合支所があるが、総合支所の特徴が見えない。烏山地域の特色を生かしたまちづくりをすすめてほしい。	京王線立体事業とそれに伴う駅周辺のまちづくりを良い契機として、烏山地域を発展させていきたい。
まちづくり	烏山地域にも多様な活動団体がある。様々な活動団体が参加し決めていく「参加と協働」のしくみを設計してほしい。	ポータルランドの自治評議会では、地域の困りごとや課題について、様々な知恵を出し合って解決につなげている。このような事例も参考に、地域行政制度を検討していきたい。
まちづくり	民生委員・児童委員のなり手がいない。欠員が埋まらない状況である。例年5月に活動強化週間のPRをしているが、区報の記事が小さい。民生委員・児童委員の活動の周知に力を入れてほしい。	民生委員・児童委員の活躍や欠員による影響が分かるよう広報に力を入れていく。また、高齢者の見守りを機軸として、民生委員・児童委員の役割が高まっている。これまで以上にフォローしていきたい。
まちづくり	烏山区民センター運営協議会では幅広い層の方が参加する様々な行事を行っている。区の協力を引き続きお願いする。	活発な活動をしていただいている。引き続き協力していく。
福祉	難病医療費助成更新手続きで、待たされたうえ、区ミスで書類の再提出を求められた。成年後見制度を案内されたが、対象ではなかった。福祉の相談窓口の対応としていかがなものか。	不正確な案内がないよう注意し、丁寧な対応を徹底していく。
福祉	ボランティア手帳の制度を使用するかは老人ホーム等の事業者から申し出がなければいけないのか。区から働きかけはしないのか。	シニアボランティア手帳はボランティアポイント(V スタンプ)の発行管理を施設で行う必要があるため、この制度の使用は各施設に判断していただいている。独自にボランティアを募っている場合に、制度に使用しない施設もある。事業者を集める機会もあるので、ご意見は窓口となる介護保険課に伝える。
環境・清掃・リサイクル	自然環境が悪化し、野鳥が減少している。自然環境保護対策を取って欲しい。	烏山地域には大きな緑地や雑木林、グラウンド等も多いため、農地の保全を含め、自然環境保護に取り組んでいく。

道路・街づくり	京王線連立事業に伴う高架下に区の窓口や郵便局、託児所等の公共施設が欲しいという要望もある。地域の意見を聞きながらより良い街づくりを進めてもらいたい。	都、京王電鉄、沿線自治体が協議しながら決定となる。千歳烏山は主要な地域生活拠点であり、更なる賑わいと活気がある駅周辺まちづくりとなるよう、区の方針や計画も踏まえ、地域の皆様や関係所管と意見交換・連携しながら進めていく。
道路・街づくり	芦花公園駅に大きな駐輪場を整備して欲しい。千歳通りに駐輪場の出入口を設ける等、区としても京王電鉄に要望して欲しい。	利用者の利便性にも配慮しながら整備がされるよう、関係所管と連携しながら進めていく。
道路・街づくり	烏山北住宅の建替えについて、高齢化が進んでいて一日も早い建替えを望んでいる。地区計画をなるべく早く策定して欲しい。	しっかりと前に進められるようにしたい。周辺住宅地との調和の問題もあるが、早期の地区計画策定に向けて取り組んでいく。
交通	高齢者が外に出やすくなるように、北烏山など、交通（移動）手段の不便な地域について、ミニバスの運行など検討してほしい。	健康寿命を延ばしていくことが大事であり、交通手段の確保は重要な要素となるが、バス事業者にとっては採算性の面で課題がある。区としては地域を絞り込み、対応可能なしくみを組み立てていく。それぞれの地域で同様の声は出ているので積極的に前に進めたい。
交通	連立事業に伴う防音対策、電車のダイヤ変更や急行・準急の停車について京王電鉄に申し入れて欲しい。	高架化による騒音対策は、小田急線連立事業でも様々な工夫が行われており、京王線連立事業においても、様々な対策を行うよう京王電鉄に要請する。ダイヤ改正については、ご意見があったことを京王電鉄に伝える。
子ども・教育	芦花小学校敷地に校歌にも歌われているヒマラヤスギがある。徳富蘆花ゆかりの地である同地の文化を大切にし、切らないでほしい。	ヒマラヤ杉は保存する計画である。施工の際に、支障となる枝の剪定などが状況に応じて必要になる。今後も、校内の樹木は、樹木診断の結果や敷地内の空き状況等の条件を踏まえて、移植に適する場合は移植に努めていく。

公共施設	<p>烏山区民センター利用団体の会として、利用資格の会員限定をはずす、使用料に減価償却費を算定しないことを要望し、優先利用制度導入に反対する。</p>	<p>利用料に関しては減価償却費の転嫁はしないという区長の思いであるが、手続としては決まっておらず、これからの検討である。(後日、面談で回答)。その他、利用資格等については経緯の確認も含め現在検討中。いただいた要望書も参考にしながら、区民に開放できる場所の確保と利用時のルールづくりをしていきたいと考えている。</p>
その他	<p>ふるさと納税について、区民が区に納税（寄付）しても感謝状のみと聞いた。他自治体の魅力的な返礼品に対して、何か対策を講じた方がいいのではないか。</p>	<p>区では「返礼品」ではなく「記念品」として、寄附額に関わらず同じものを送っている。返礼品競争に乗らず、寄附を集めることを基本に、福祉車両の購入や児童養護施設の子どもの奨学金に充てている。今年度、ふるさと納税により 54億円が区から流出する見込みであり、政府に対してふるさと納税を根本から見直すよう取り組んでいく。</p>

要望等一覧

車座集会での「意見・質問票」による要望等を項目に分けてまとめた。(項目は「地区別質問・意見等」と同じ)

項目	要望等
しくみづくり	地域行政制度については、地方自治を一番に推進する形で、今後の条例検討を進めてほしい。
防災	代田 5・6 丁目は過去に浸水被害があった。大雨が降った場合の対応を東京都と連携してやってほしい。
防災	要支援者の家庭など配慮が必要な人の中には、小学校への避難が難しいという人もいるので、介護施設なども使えるように交渉してほしい。
防災	旧北沢小学校の跡地利用について、震災時の避難場所としての活用を検討してほしい。
防災	台風時の避難場所と管理者を予め決めてほしい。
防災	避難所について、現状を踏まえ、収容人数、マンホールトイレの運用、携帯用トイレの活用、夜間の照明設備などの見直しを検討してほしい。
防災	架空電線の美化について、道路の上に通信線が網のような状態で張られているため、防災の観点からも地中化・集合化等の対策が必要である。
防災	明大前駅駅前広場は交通広場になっているが、災害時に駅周辺滞留者が避難場所として使えるよう、かまどベンチやマンホールトイレなどの設置、トリアージスペースも確保してほしい。
防災	明大前駅駅前広場を災害時の駅周辺滞留者の避難場所として利用するには、拡声器・看板などの資材が必要なので、高架下を利用して、備蓄食料品等も入れられる倉庫を設置してほしい。
防災	災害時の駅周辺の利用を考えると、まちづくりセンターを高架下に移動させ、松原小学校内にできるまちづくりセンターは学童保育用に転用するなど検討してほしい。
防災	広場予定地は世田谷区洪水ハザードマップでは水の深さが0.5～1mなので、地下に貯水槽を設置してほしい。(松原地区)
安全・安心	公私の区別をわきまえないモラルの低い人が以前と比べて増えている。無遠慮で公私の区別のない外来者対策、防犯対策、モラル教育をお願いしたい。
福祉	特別養護老人ホームが、開設以来、満床になっていないところも見受けられる。人手不足等の原因があるかと思うが、待機待ちの人のために、定員数の入所が可能になるようお願いしたい。
福祉	入浴券について、下馬まちづくりセンターの地区は公衆浴場が一軒しかない。地域連携、資源を活用し、特養、デイサービス事業所を利用活用できると良い。
福祉	あんしんすこやかセンターの窓口業務時間を19時までにし、8時30分から17時までをフレックスタイム制にしてほしい。
道路・街づくり	井の頭線東松原駅のホームが曲がっていることもあり、電車とホームの間隙が広くて危ない。京王電鉄に要望しているが話が進まない。

道路・街づくり	現在の都と区はうまく協働できているようには思えない。都道（防災補助 52 号線）の計画は全く進んでいないようだ。都の計画に区が参画していたらうまくいくのではないか。
道路・街づくり	駅前に交番がないのは、道案内などができず非常に大きな欠点である。昔は梅ヶ丘駅や豪徳寺駅にもあったので復活させてほしい。公衆トイレも少ないので増やしてほしい。（梅丘地区）
道路・街づくり	東北沢駅から茶沢通りにかけて鉄道上部に不要な盛土がされ、日陰等の影響が出ている。小田急所有だが、税金が投入されていることを念頭に上部利用を進め、区職員も理解するべき。
道路・街づくり	東北沢から世田谷代田については、緑の基軸を形成することを約束しており、小田急にも十分な緑化を働きかけるべき。防災観点からも公園のような広場をつくってほしい。
道路・街づくり	「明大前駅駅前広場南の住環境の保全を考える会」が提案した「松原 2 丁目地区地区計画」が街づくり条例第 20 条に基づく地区計画等の素案として受理され、明大前駅駅前広場周辺地区地区計画が決定したので、これらに基づいて街づくりを進めていきたい。
子ども・教育	砧小学校の建替えの検討委員会のメンバーが決まっていて、保護者は意見を出せない。どうしたらいいのか。
子ども・教育	世田谷区の HP には、児童館などのイベントが地区ごとに載っているが、地域をまたいでよいイベントには参加したいので、よい掲載方法を考えてほしい。
子ども・教育	児童館やおでかけひろばが遠い。月に 1 回でもいいので、出張児童館などを開催してほしい。
その他	障害者との共生社会を築いていく上で、障害者自らが、区の職員や企業、区民などに心のバリアフリーを率先して教える必要があると考える。区全体としての障害者の就労支援やユニバーサル就労の考え方、取り組みを示してほしい。
その他	「子育てしやすい世田谷」になれば、ふるさと納税も他地域に流れにくくなると思う。